平 成 23 年 度

# セ ミ ナ ー 要 項

自治医科大学　医学部

学籍番号(所属)

氏　　名

# 目　　　　次

# 1．セミナー実施要領

（1）目　的

　自治医科大学では６年間を通じて、教職員との全人格的接触による教育を重視している。セミナーの目的は比較的少人数の学生と教員とが人間的な触れ合いを通じて、お互いに学ぶことである。通常の授業では得られない知識、技能、態度の習得を通じて、学生が本学の教育目標を達成するのを援ける。また学生が教育目標の内容を越えて成長することを奨励する。

（2）テーマ

　学生のもつ多様な興味と、指導する教員の興味をともに満足するような幅広いものとする。

　ａ．教員の専攻する分野の研究の第一線にふれるようなもの

　ｂ．日々の臨床の第一線でおこる問題

　ｃ．医学教育と関連した問題

　ｄ．医学の本質に深くかかわり合うようなもの

　ｅ．医師としての教養的テーマ

　ｆ．一般教養的テーマ

　ｇ．基礎医科学上のテーマ

　ｈ．語学

　ｉ．スポーツ

（3）学習方法

　テーマに則した可能な限り多様な方法とする。

　ａ．論文の精読、抄読

　ｂ．単行本の輪読、翻訳

　ｃ．調査、報告

　ｄ．実験、実習

　ｅ．症例の検討

（4）担当教員

　教授、准教授、講師及び助教とする。

セミナーを担当しようとする教員は学事課の指定する日までに次年度の原稿を作成し提出する。

（５）履修方法

セミナー要項に従って、参加を希望するテーマの担当教員に４月中に直接申し出る。

（６）開講期間、回数、曜日、時間

時間表で空いている適当な曜日、時間帯をあてる。原則として10コマ（15時間）、20コマ（30時間）または30コマ（45時間）とし、各学期10コマとする。

（７）開講場所

教員室、カンファレンスルーム、図書室、実験室など学習方法や教員の指導に最も適した場所を使用する。

（８）単位の認定方法

セミナーは自由選択で、既定時間（15時間につき１単位）に達すれば、単位を認定する。但し、各学期１単位までとし、年間３単位を限度とする。

# セミナー・スケジュール黒板使用内規

**（範囲）**自治医科大学の各講座、各部門のセミナーなどで学生、研究生、その他に開放されているもの。

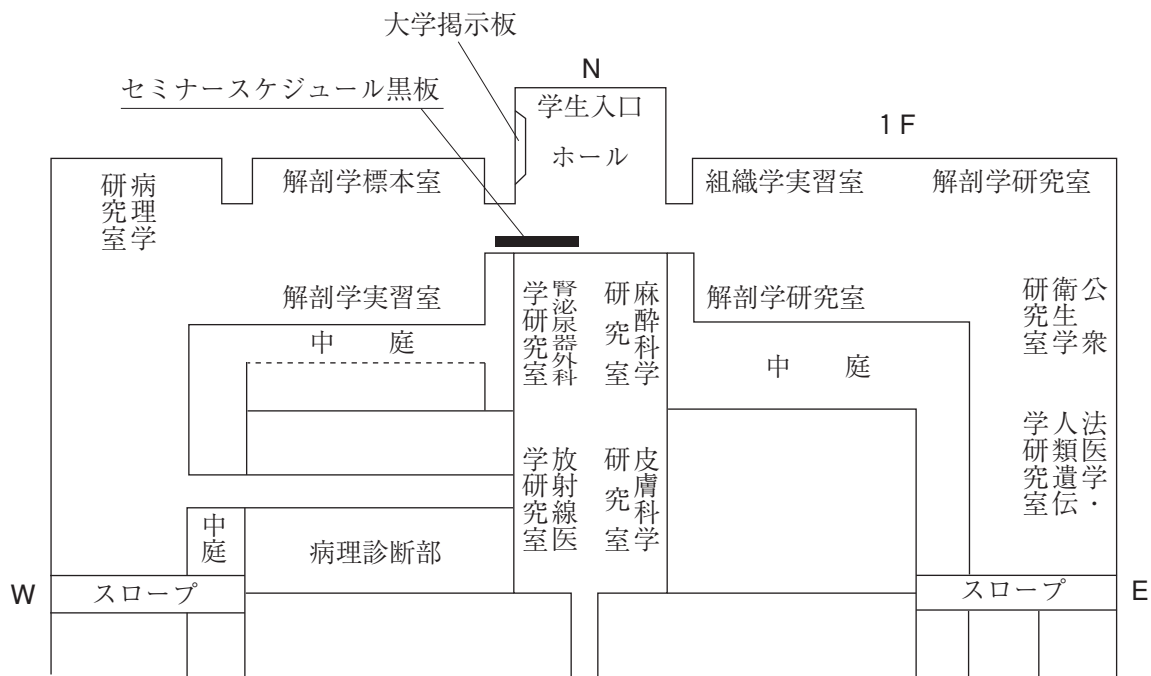
**（記入）**第１行左に講座（部門）名、右に連絡責任者内線番号を記入する。

セミナーの詳細を書くスペースがないので、必要なら紙に書いたメモをマグネットでとめる。（Ｂ５版横書で区画内におさまるように）

セミナー開催日の１週間以上前に記入し終了後は直ちに消すことを原則とする。

**（責任）**各講座、各部門は「セミナー・スケジュール記入担当者」を定め、スケジュールを常に up-to-date なものにしておく責任をもつ。

**（配分）**年度始め、または必要なときに、教務委員会が再配分を行う。

**（設置場所）**

## 2．教　育　目　標

医育の第一目標は云うまでもなく、すべての学生が十分な医学知識と基本となる医療技術を習得することである。このほかに本学の教育目標は病者の気持ちを汲む能力の「情」の面と地域医療に挺身する気概の「意」の面において豊かな人間性を涵養することを唱っている。しかしさらに学生に創造的で科学的な能力を獲得させるために本学は、1993年発足の新カリキュラムの中で、少人数教育の方法により個々の教員から全人的な人間的影響を受け得るいくつかの形態の授業を実施することとした。その一つが本授業科目「セミナー」である。すなわち、医学研究あるいは個々の専門領域の研究を通して日夜知的生産に励んでいる教員に学生が直に接しその影響を直接受けることによって、学生の創造性を養い、科学的な思考能力を学生に獲得させることが本科目の教育目標である。言い換えるならば本授業科目は、卒業までに習得した医学の知識と技術に留まらず、生涯を通じて自ら学習を続けることによって新しい知識と技術を獲得し続ける能力、あるいは新しい知識を創造していく能力を少人数教育の方法によって学生に獲得させることを教育目標とする。

# 3．平成23年度　セミナー一覧

| セミナー番号 | テ　ー　マ | 対象学年 | 担当、責任者 | 所　属 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 日本文学（俳諧文学）『奥の細道』 | 全学年 | 樽本高壽 | 文学 | 1 |
| 2 | 文学鑑賞・文藝創作 | 全学年 | 〃 | 〃 | 2 |
| 3 | 文藝創作・俳句 | 全学年 | 〃 | 〃 | 3 |
| 4 | 文化人類学研究 | 全学年 | 渥美一弥 | 社会学 | 4 |
| 5 | 質的調査研究 | 全学年 | 青山泰子 | 〃 | 5 |
| 6 | 数理遺伝学 | 全学年 | 奥田浩 | 数学 | 6 |
| 7 | 英語＆クリティカル・シンキング | 全学年 | 茂木秀昭 | 英語 | 7 |
| 8 | Cultural Exchange | 全学年 | Robert Dilenschneider | 〃 | 8 |
| 9 | クラシック音楽鑑賞 | 全学年 | 加藤直克 | ドイツ語 | 9 |
| 10 | ドイツ語、ドイツ文学 | 全学年 | 〃 | 〃 | 10 |
| 11 | 現代哲学、生命倫理 | 全学年 | 〃 | 〃 | 11 |
| 12 | フランス語・フランス文学 | 全学年 | 〃 | 〃 | 12 |
| 13 | 中国語会話 | 全学年 | 阿部博幸 | 中国語 | 13 |
| 14 | 護身術 | 全学年 | 〃 | 〃 | 14 |
| 15 | 中国映画鑑賞 | 全学年 | 〃 | 〃 | 15 |
| 16 | 韓国映画鑑賞 | 全学年 | 〃 | 〃 | 16 |
| 17 | 身体を読む | 全学年 | 板井美浩 | 保健体育 | 17 |
| 18 | 比較内分泌学 | 2～6 | 菊地元史 | 教育学 | 18 |
| 19 | ヒトの体の形態形成 | 1～2 | 野田泰子 | 解剖学 | 19 |
| 20 | 機能組織細胞学 | 2～6 | 屋代隆 | 組織学 | 20 |
| 21 | ナイト法医病理学を読む会 | 4 | 坂本敦司 | 法医学 | 21 |
| 22 | 熱物理学 | 1 | 原田三男 | 生物物理学 | 22 |
| 23 | 脳とストレス | 全学年 | 尾仲達史 | 神経脳生理学 | 23 |
| 24 | 神経細胞死 | 全学年 | 島崎久仁子 | 〃 | 24 |
| 25 | 糖尿病／神経内分泌 | 全学年 | 矢田俊彦 | 統合生理学 | 25 |

# セ ミ ナ ー 1

| 担当教員 | 樽本　高壽 |
|---|---|
| 所属 | 文　学 |
| テーマ | 日本文学（俳諧文学）『奥の細道』 |
| 学習目標 | 「俳諧の本質を説くことは、日本の詩全体の本質を説くことであり、やがては又日本人の宗教と哲学をも説くことになるであらう。～中略～俳諧は我国の文化の諸相を貫く風雅の精神の発現の一相である。」（『俳諧論』）と寺田寅彦は喝破したが、その俳諧の詩境を言語芸術の域まで大成したのが松尾芭蕉である。その代表作である『奥の細道』は日本文学の金字塔であるばかりでなく、今や時空を超えて「世界の古典」として高い評価を得ている。<br>このセミナーでは、平成八年に発見された芭蕉自筆本の精読、さらに、映像等による現代版『奥の細道』の旅の追体験や芭蕉関連の文献考察なども併せた多元的なアプローチから、『奥の細道』を裏打ちしている蕉風俳諧の真髄と、その現代的意義の探求と検証を目標とする。 |
| 学習方法 | 原典精読とマルチメディアによる多元的学習。 |
| テキスト | 当方にて資料提供。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 記念棟10階 |
| 曜日・時刻 | 未定 |
| 期間・回数 | 通年、計10回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | |

# セ　ミ　ナ　ー　2

| 担当教員 | 樽本　高壽 |
|---|---|
| 所属 | 文　学 |
| テーマ | 文学鑑賞・文藝創作 |
| 学習目標 | 古今東西の文学作品に接し、また自ら文藝創作を通し豊かな人間形成の涵養に資すること。 |
| 学習方法 | 興味のある文学作品につき各自、思うところをプレゼンテーションし、ディスカッションする。その他、適宜勘案。 |
| テキスト | 未定 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 記念棟10階 |
| 曜日・時刻 | 未定 |
| 期間・回数 | 通年、計10回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | 一年間の成果を文藝誌として刊行する予定。 |

# セ　ミ　ナ　ー　3

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 樽本　高壽 |
| 所属 | 文　学 |
| テーマ | 文藝創作・俳句 |
| 学習目標 | 俳句創作の基礎を修得し、句会に参加できるようになる。 |
| 学習方法 | 俳句創作の基礎については実作を通して担当教員が教授。<br>句会では、創作のみならず鑑賞・句評を通して句境の深化を図る。 |
| テキスト | 『俳句歳時記』角川学芸出版、あるいは『必携季寄せ』角川書店<br>『俳句・作る楽しむ発表する』大井恒行、西東社 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 記念棟10階 |
| 曜日・時刻 | 未定 |
| 期間・回数 | 通年、計10回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | 各種俳句コンテストに作品を応募。 |

# セ　ミ　ナ　ー　4

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 渥美　一弥 |
| 所属 | 社　会　学 |
| テーマ | 文化人類学研究 |
| 学習目標 | 世界の様々な文化における慣習、風俗、医療のありかた等を柔軟な思考で理解することを目指す。 |
| 学習方法 | 文化人類学関係の文献の精読とそのトピックについての討論。 |
| テキスト | 受講学生と話し合って決める。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 記念棟10階　会議室 |
| 曜日・時刻 | 受講学生と相談する |
| 期間・回数 | 通年、計30回 |
| 単位 | ３単位 |
| 単位認定方法 | セミナーにおける発表内容により評価。４／５以上の出席 |
| 備考 | |

# セ　ミ　ナ　ー　5

| 担当教員 | 青山　泰子 |
|---|---|
| 所属 | 社　会　学 |
| テーマ | 質的調査研究 |
| 学習目標 | 「質的調査」の技法の特性を学ぶとともに、福祉・保健・医療のほか、さまざまな分野、場面において質的調査研究を行う上での難しさや工夫点、留意点、応用点などを学ぶ。 |
| 学習方法 | 用語・用法などの基礎については、テキストで学習する。加えて、質的調査の手法を用いて調査研究された論文を読み、問題点や工夫すべき点を検討する。視点、観点の考察に役立つ映像や写真も、資料として活用する。<br>参加者が質的調査研究を実践している、もしくは実践の予定がある場合には、実際の調査研究上の内容検討会なども適宜開催する。 |
| テキスト | 参加者と相談の上、決定する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 原則として、記念棟10階 |
| 曜日・時刻 | 隔週１回で、曜日と時刻は参加者との相談上、決定する。 |
| 期間・回数 | 通年、計15回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | ５月から開始する。看護学部生も参加歓迎。<br>aoyama@jichi.ac.jp |

# セ ミ ナ ー 6

| 担当教員 | 奥田　　浩 |
|---|---|
| 所属 | 数　　学 |
| テーマ | 数理遺伝学 |
| 学習目標 | １．遺伝学における数学的側面について理解する。<br>２．遺伝学の基礎的知識の整理を行う。<br>３．遺伝学と臨床医学とのかかわりについて理解する。 |
| 学習方法 | |
| テキスト | プリントを配布する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 未定 |
| 曜日・時刻 | 未定 |
| 期間・回数 | 相談のうえ決定する。 |
| 単位 | なし |
| 単位認定方法 | なし |
| 備考 | |

# セ　ミ　ナ　ー　7

| 担当教員 | 茂木　秀昭 |
| --- | --- |
| 所属 | 英　語 |
| テーマ | 英語＆クリティカル・シンキング |
| 学習目標 | 1）英語を通して社会の様々な問題に関して、多角的な視点で考え、議論する。<br>2）論理的思考やクリティカル・シンキングを身につけ、問題解決能力やコミュニケーション能力を養成する。 |
| 学習方法 | 様々なトピックに関して、基本的な英語表現などを学ぶと共に、文献や映像等の資料をもとに、議論等をする。 |
| テキスト | 適宜プリント配布 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 記念棟10階 |
| 曜日・時刻 | 毎週水曜日　12：30－13：20を基本とするが、受講希望者と相談の上決定 |
| 期間・回数 | 各学期10回、計30回 |
| 単位 | 各学期１単位、１年３単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | 原則として10名以内。英語の苦手な人も歓迎。 |

# セ　ミ　ナ　ー　8

| 項目 | 内容 |
| --- | --- |
| 担当教員 | ロバート　ディレンシュナイダー<br>Robert Dilenschneider |
| 所属 | English Department |
| テーマ | Cultural Exchange |
| 学習目標 | A acquisition and confidence using English conversation skills. |
| 学習方法 | Discussion based on weekly themes. |
| テキスト | Handouts provided by the instructor. |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 記念棟10階 |
| 曜日・時刻 | 毎週月曜日　12：30－13：20を基本とするが、受講者と相談の上決定 |
| 期間・回数 | 各学期10回、計30回 |
| 単位 | 各学期１単位、１年３単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | 原則として10名以内<br>人数が多い場合には学期毎に分散してもらうこともある。 |

# セミナー 9

| 担当教員 | 加藤　直克、渥美　一弥 |
| --- | --- |
| 所属 | ドイツ語、社会学 |
| テーマ | クラシック音楽鑑賞 |
| 学習目標 | 音楽鑑賞を通じて、ヨーロッパ音楽の展開のあとをたどり、合わせて宗教、思想、政治等のさまざまな背景を考察する。また名曲の演奏を比較して聴く。 |
| 学習方法 | ほぼ音楽史にそって中世から現代までの主な作品を、できるだけ複数の演奏家によって聴き比べながら鑑賞する。 |
| テキスト | 適宜プリント配布 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 記念棟10階 |
| 曜日・時刻 | 毎週火曜日　12：40－13：35を基本とするが、なお受講希望者と相談の上決定 |
| 期間・回数 | 通年、計30回 |
| 単位 | ３単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席および感想レポート |
| 備考 | ８名以下。 |

# セミナー 10

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 加藤　直克 |
| 所属 | ドイツ語 |
| テーマ | ドイツ語、ドイツ文学 |
| 学習目標 | 1）初級文法<br>2）中級（独作文（ドイツ語でメールが書けるようにする）簡単な小説の購読） |
| 学習方法 | 学生諸君の要望に応じて教材、学習方法を考える。 |
| テキスト | こちらで用意。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 記念棟10階ドイツ語研究室 |
| 曜日・時刻 | 昼休みを中心とするが曜日、時間は受講希望者と相談の上決定 |
| 期間・回数 | 通年、計30回 |
| 単位 | ３単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | 昼休みの場合は、昼食持参のこと（弁当を注文することもできる） |

# セ　ミ　ナ　ー　11

| 担当教員 | 加藤　直克 |
|---|---|
| 所属 | ドイツ語 |
| テーマ | 現代哲学、生命倫理 |
| 学習目標 | 現代哲学、現代思想の中で医学や医療の問題とかかわってくるトピックをとりあげて常識を深めつつ、芸術、文学、宗教、社会等の分野に視野を広げる。<br>生命倫理・医療倫理について基本的な考え方を学ぶ。<br>ギリシャ哲学、キリスト教思想を歴史に沿ってたどってゆく。 |
| 学習方法 | 生命倫理、医療倫理の諸問題について論文を読みながらディスカッションする。<br>また、医療倫理を考えるドラマを視聴して、ディスカッションを行う。<br>受講者と相談してテキストを選び、読んでいく。 |
| テキスト | 『現代思想としてのギリシア哲学』　古東哲明　ちくま学芸文庫 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 記念棟10階ドイツ語研究室 |
| 曜日・時刻 | 受講希望者と相談 |
| 期間・回数 | 通年、計30回 |
| 単位 | ３単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | 上記以外についても要望があれば対応する。 |

# セ　ミ　ナ　ー　12

| 担当教員 | 加藤　直克 |
| --- | --- |
| 所属 | ドイツ語 |
| テーマ | フランス語・フランス文学 |
| 学習目標 | サン＝テグジュペリ『星の王子様』をフランス語で読む。 |
| 学習方法 | 発音・文法をチェックしながら、読み進めていく。各種の訳を参照しながら、原文の意味を考えていく。 |
| テキスト | Le petit Prince　Antoine de Saint-Exupéry　Harcourt, Inc. |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 記念棟10階 |
| 曜日・時刻 | 受講希望者と相談 |
| 期間・回数 | 原則として週１回　年間30回 |
| 単位 | ３単位 |
| 単位認定方法 | 参加回数、参加態度による |
| 備考 | これからフランス語を学ぼうという人も参加歓迎。 |

# セ ミ ナ ー 13

| 担当教員 | 阿部　博幸 |
|---|---|
| 所属 | 中 国 語 |
| テーマ | 中国語会話 |
| 学習目標 | 中国語の基礎を確認しながら、簡単な表現を使った会話ができるようになる。 |
| 学習方法 | 常用表現の入れ換え練習をしたり、自由な会話を楽しむ。 |
| テキスト | 『語感をみがく入門中国語』阿部博幸・王衛清（朝日出版社） |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 未定 |
| 曜日・時刻 | 未定 |
| 期間・回数 | 通年、計30回 |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | 問い合わせは阿部（内線3358または、jichiabe@jichi.ac.jp）まで。 |

# セ　ミ　ナ　ー　14

| 担当教員 | 阿部　博幸・柳澤　健 |
| --- | --- |
| 所属 | 中国語・構造生化学 |
| テーマ | 護　身　術 |
| 学習目標 | 合気道の稽古を通して護身の考え方の基礎を学ぶ。 |
| 学習方法 | 手の解き方・受け身・体捌きを反復する。 |
| テキスト | 特に使用しない。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 本学内武道館 |
| 曜日・時刻 | 水曜日　７：00～８：00 |
| 期間・回数 | 通年計30回 |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | 問い合わせは阿部（内線3358または、jichiabe@jichi.ac.jp）まで。 |

# セ ミ ナ ー 15

| 担当教員 | 阿部　博幸 |
|---|---|
| 所属 | 中国語 |
| テーマ | 中国映画鑑賞 |
| 学習目標 | 中国映画を通して、中国の文化や中国人の考え方を理解する。 |
| 学習方法 | ＤＶＤやＶＣＤで中国映画を鑑賞し、映画で描かれている中国の文化・風俗習慣などを欧米や日本のものと比較しながら話し合う。 |
| テキスト | 使用しない。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 記念棟10階 |
| 曜日・時刻 | 未定（参加者で調整する） |
| 期間・回数 | 通年、計15回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | 問い合わせは、阿部（内線3358または、jichiabe@jichi.ac.jp）まで。 |

# セミナー16

| 担当教員 | 阿部　博幸 |
|---|---|
| 所属 | 中国語 |
| テーマ | 韓国映画鑑賞 |
| 学習目標 | 韓国映画を通して、韓国の文化や韓国人の考え方を理解する。 |
| 学習方法 | ＤＶＤなどで韓国映画を鑑賞し、映画で描かれている韓国の文化・風俗習慣などを欧米や日本のものと比較しながら話し合う。 |
| テキスト | 使用しない。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 記念棟10階 |
| 曜日・時刻 | 未定（参加者で調整する） |
| 期間・回数 | 通年、計15回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | 問い合わせは、阿部（内線3358または、jichiabe@jichi.ac.jp）まで。 |

# セ　ミ　ナ　ー　17

| 担当教員 | 板井　美浩 |
| --- | --- |
| 所属 | 保健体育 |
| テーマ | 身体を読む |
| 学習目標 | 「身体」・「運動」に関する書籍や文献の講読および身体運動の実践やパフォーマンス鑑賞を通じて、「身体」にたいする認識を深める。 |
| 学習方法 | 書籍あるいは文献の講読<br>舞踏などパフォーマンスの鑑賞および実践 |
| テキスト | 相談の上、決定する |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 総合教育研究室（記念棟10階）、その他の小教室 |
| 曜日・時刻 | 毎週火曜日、昼休み |
| 期間・回数 | 通年30回 |
| 単位 | １～２単位 |
| 単位認定方法 | 出席状況による |
| 備考 | |

## セ　ミ　ナ　ー　18

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 菊地　元史 |
| 所属 | 教育学 |
| テーマ | 比較内分泌学 |
| 学習目標 | 医学研究はそのほとんどが、ヒトあるいは哺乳類の実験動物のみを対象としている。しかし、広く動物一般に目を向け、それらの間に「何が共通し、何が異なるのか」との疑問をもつことによって、ヒトという種についての理解が遥かに深まる。本セミナーでは、担当教員の専門分野である内分泌学を中心として、比較動物学の概念を身につけることを目指したい。比較動物学の根本となる進化という概念についても理解を深めることになろう。 |
| 学習方法 | 討論会、抄読会、実験を適宜組み合わせる。 |
| テキスト | 適宜、指定する。 |
| 対象学年 | ２～６学年 |
| 場所 | 解剖学講座組織学部門　セミナー室 |
| 曜日・時刻 | 履修希望者と相談のうえ決める。 |
| 期間・回数 | 年10回程度 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | |

# セ　ミ　ナ　ー　19

| 担当教員 | 野田　泰子 |
| --- | --- |
| 所属 | 解剖学部門 |
| テーマ | ヒトの体の形態形成 |
| 学習目標 | 系統発生、個体発生学的な見地から、ヒトの体の最終形の成り立ちについて学習する。 |
| 学習方法 | 単行本あるいは論文についての討論。 |
| テキスト | 適宜、指定する。 |
| 対象学年 | １～２学年 |
| 場所 | 解剖学部門　セミナー室 |
| 曜日・時刻 | 相談して決める。 |
| 期間・回数 | 平成23年４月～平成24年３月 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ２／３以上の出席 |
| 備考 | 数名 |

# セ ミ ナ ー 20

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 屋代　　隆、藤原　　研、堀口　幸太郎、塚田　岳大 |
| 所属 | 組織学部門 |
| テーマ | 機能組織細胞学 |
| 学習目標 | 下垂体前葉細胞の機能は、視床下部や末梢器官からの内分泌シグナルによって支配されています。しかし、同時に前葉組織内にもコミュニケーションや細胞外マトリックスが細胞機能を調節するしくみが存在して、はじめて下垂体前葉は、全体としての調和のとれた活動をすることができるのです。これらの局所的な細胞機能調節の機能を明らかにしようとする基礎研究は、再生移植科学の分野でも、幹細胞からの機能的な臓器（組織）発生の観点から注目を集めようとしています。<br>これらの課題に、光学顕微鏡および電子顕微鏡レベルでの免疫組織化学や in situ hybridization、さらに、トランスジェニック動物やタンパク質の強制発現／発現抑制を行なった細胞・器官の生体イメージング等の形態学的技術によってアプローチしています。それらを理解することを学習目標とします。 |
| 学習方法 | 討論会、抄読会、実験を組み合わせる。 |
| テキスト | 適宜、指定する。 |
| 対象学年 | ２～６学年 |
| 場所 | 解剖学講座組織学部門セミナー室 |
| 曜日・時刻 | 履修希望者と相談の上決める。 |
| 期間・回数 | 年10回程度 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上出席 |
| 備考 | |

## セ　ミ　ナ　ー　21

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 坂本　敦司、鈴木　秀人 |
| 所属 | 法医学部門 |
| テーマ | ナイト法医病理学を読む会 |
| 学習目標 | 法医学の講義は地域での用務上必要な医事法制や遭遇するであろう検死業務への対応を強く意識したものとなっているが、本セミナーでは一歩進めて法医解剖・法医病理学についてのより深い知識・考え方の習得を目指す。 |
| 学習方法 | 成書の輪読を中心として、適宜、討論を行う。 |
| テキスト | Knight's Forensic Pathology（3rd ed） |
| 対象学年 | ４学年 |
| 場所 | 地域医療学センター　法医学部門 |
| 曜日・時刻 | 火曜（17：00～18：30）を予定しているが相談の上、変更可。 |
| 期間・回数 | １～２学期・10コマ程度（15時間相当程度） |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | ３名程度 |

# セ　ミ　ナ　ー　22

| 担当教員 | 原田　三男 |
| --- | --- |
| 所属 | 生物物理学部門 |
| テーマ | 熱物理学 |
| 学習目標 | 熱力学・統計力学の基礎知識を獲得する。 |
| 学習方法 | 講義および実験。 |
| テキスト | 印刷物を随時準備する。 |
| 対象学年 | １学年 |
| 場所 | 医科物理学実習室 |
| 曜日・時刻 | 相談のうえ決定する |
| 期間・回数 | 10回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 学習態度および口頭試問 |
| 備考 | |

# セ　ミ　ナ　ー　23

| 担当教員 | 尾仲　達史、高柳　友紀 |
|---|---|
| 所属 | 神経脳生理学部門 |
| テーマ | 脳とストレス |
| 学習目標 | 　ストレスは、様々な疾患の発症因子あるいは増悪因子である。このストレス反応を制御しているのが脳である。この領域の最近の成果を学習する。 |
| 学習方法 | 単行本あるいは総説の輪読。<br>実験の見学・参加。 |
| テキスト | 相談して決める。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 神経脳生理学部門　集会室（本館東棟２Ｆ） |
| 曜日・時刻 | 相談して決める。 |
| 期間・回数 | 平成23年４月～平成24年３月 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ２／３以上の出席 |
| 備考 | ２～６名 |

## セ　ミ　ナ　ー　24

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 島崎　久仁子 |
| 所属 | 神経脳生理学部門 |
| テーマ | 神経細胞死 |
| 学習目標 | 中枢神経系における神経細胞死の原因や過程を理解し、「脳を守る」方法についての最新情報を学習していく。 |
| 学習方法 | 論文紹介、実験見学を適宜組み合わせる。 |
| テキスト | 論文・単行本などからのプリント配布。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 神経脳生理学部門　集会室（本館東棟２Ｆ） |
| 曜日・時刻 | 月１回を目処に曜日・時刻は相談して決める。 |
| 期間・回数 | 平成23年４月～平成24年３月 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | １／２以上の出席 |
| 備考 | |

# セミナー25

| 担当教員 | 矢田　俊彦、尾仲　達史、中田　正範、出崎　克也、前島　裕子 |
| --- | --- |
| 所属 | 統合生理学部門 |
| テーマ | 糖尿病／神経内分泌 |
| 学習目標 | 英文論文の読み方・紹介方法を学習<br>インスリン分泌と作用、糖代謝調節、摂食調節機構の理解<br>糖尿病、肥満、高血圧の成因の理解<br>神経内分泌系の機構の理解<br>ストレスと神経内分泌・疾患との関係についての理解 |
| 学習方法 | 論文抄読 |
| テキスト | 国際雑誌より論文をコピーし配付 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 統合生理学カンファレンス室 |
| 曜日・時刻 | 18：00～19：30、第３月曜日、参加日相談可 |
| 期間・回数 | 平成23年４月～平成24年３月、年12回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | １／２以上の出席 |
| 備考 | |

# セ　ミ　ナ　ー　26

| 担当教員 | 矢田　俊彦、中田　正範、出崎　克也、前島　裕子 |
|---|---|
| 所属 | 統合生理学部門 |
| テーマ | 脳と全身臓器の連関 |
| 学習目標 | 脳と全身臓器の機能はこれまで別個に扱われてきた。しかし全身臓器⇔脳の相互作用は生体恒常性の維持とその破綻（疾患）において極めて重要である。この新しい“臓器連関学”について個体から細胞・分子レベルで学習し自由な発想を出し合う。 |
| 学習方法 | 論文抄読 |
| テキスト | 相談して決める。<br>国際雑誌より論文をコピーして配布 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 統合生理学カンファレンス室 |
| 曜日・時刻 | 18：00～19：30、第４金曜日、参加日相談可 |
| 期間・回数 | 平成23年４月～平成24年３月、年12回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | １／２以上の出席 |
| 備考 | |

# セ ミ ナ ー 27

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 柳澤　　健、松儀　実広、太田　　聡 |
| 所属 | 構造生化学部門 |
| テーマ | 遺伝子のクローニングと発現 |
| 学習目標 | 基本的なモレキュラークローニングの手法を学び、セントラルドグマを実際に体感する。 |
| 学習方法 | 実際に遺伝子をPCRにより増幅し、発現ベクターに組み込んで、大腸菌、あるいは哺乳動物細胞を用いて発現させる。 |
| テキスト | 特になし |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 構造生化学部門　実験室　（W3-107） |
| 曜日・時刻 | 相談の上決定する。 |
| 期間・回数 | 各学期、15回ほど。 |
| 単位 | 各学期、１単位、１年３単位。 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | 1-2名 |

# セミナー 28

| 担当教員 | 浜本　敏郎 |
|---|---|
| 所属 | 機能生化学部門 |
| テーマ | 動画で学ぶ生化学 |
| 学習目標 | 　健康に関する素朴な疑問に生化学の視点から考察を加えることができる。 |
| 学習方法 | ネット上の生化学に関する資料の中から特に動画として提供されているものを選び、解説する。無批判に受け入れるのではなく、生化学的に合理的説明であるかを確認する。 |
| テキスト | プリントを配布。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 機能生化学 |
| 曜日・時刻 | 17：00～18：30　週１回、曜日は相談して決める |
| 期間・回数 | 各学期10回 |
| 単位 | １単位/学期 |
| 単位認定方法 | 少なくとも一つの資料についての解説担当 |
| 備考 | 　現在のところ、ネット上での生化学に関する動画資料の大部分は英語である。 |

# セ　ミ　ナ　ー　29

| 担当教員 | 遠藤　仁司、冨永　　薫、坂下　英司、笠嶋　克巳、黒岩　憲二 |
|---|---|
| 所属 | 機能生化学部門 |
| テーマ | 分子生物学基礎実験 |
| 学習目標 | 様々な遺伝子及び遺伝子産物の解析に応用可能な生化学的・分子生物学的解析法を学ぶ<br>(1)基礎的実験手技、(2)論理的思考力、(3)問題解決能力等の修得をめざす。 |
| 学習方法 | 当講座で行っている転写後レベルの遺伝子発現制御に関連する研究やミトコンドリアタンパク質に関する研究に従事する。基本的に教員と相談しながら各個人に適した実験計画を組み実験を行う。教科書では学べない生化学研究における思考過程を楽しみながら体感する。 |
| テキスト | 特になし |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 生化学講座実験室（Ｅ３－304、Ｅ３－303） |
| 曜日・時刻 | 相談して決める |
| 期間・回数 | 各学期15回 |
| 単位 | 各学期１単位、１年３単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | 数名程度。 |

## セ ミ ナ ー 30

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 遠藤　仁司 |
| 所属 | 機能生化学部門 |
| テーマ | 症例から学ぶ生化学 |
| 学習目標 | 臨床症例をもとに、その生化学的事象を考える力を養う。 |
| 学習方法 | 「症例から学ぶ生化学(東京化学同人)」、「症例ファイル・生化学(丸善出版)」等から引用した症例を用いて、生化学的事象を順番に討議・解説する。 |
| テキスト | プリントを配布 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 生化学セミナー室 |
| 曜日・時刻 | 相談の上決定 |
| 期間・回数 | ４月～９月　15回　　10月～３月　15回 |
| 単位 | 各期１単位、１年２単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | 数名程度 |

## セ　ミ　ナ　ー　31

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 富永　眞一 |
| 所属 | 病態生化学部門 |
| テーマ | Science を楽しむ |
| 学習目標 | 生命科学の面白さを味わう。同時に最新の論文の大意をくみとる力を養う。 |
| 学習方法 | Science 最新号について、生命科学分野の論文を抄読する。 |
| テキスト | Science（on line journal）コピーをこちらで用意する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 病態生化学セミナー室 |
| 曜日・時刻 | 曜日・時刻は相談の上決定する |
| 期間・回数 | 各学期10回 |
| 単位 | 各学期１単位、１年３単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | ４名以下 |

# セ　ミ　ナ　ー　32

| 担当教員 | 富永　眞一、為本　浩至、小宮根　真弓 |
| --- | --- |
| 所属 | 病態生化学部門 |
| テーマ | 生化学基礎実験 |
| 学習目標 | 生体試料についての生化学的、分子生物学的解析は病因を探る上でも近年ますますその重要性が増している。このセミナーでは、基礎的な生化学の実験操作を学ぶ。 |
| 学習方法 | 当講座では細胞の増殖・分化の制御に関与する遺伝子およびその産物について、機能の解析を行っている。これらに関連した実験を通じ、生化学の実験手技を体得する。 |
| テキスト | 特に指定しない |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 生化学講座　実験室（E－302） |
| 曜日・時刻 | 曜日・時刻は相談の上決定する。 |
| 期間・回数 | 各学期　10回 |
| 単位 | 各学期　１単位、１年３単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | ４名以下。 |

# セ　ミ　ナ　ー　33

| 担当教員 | 為本　浩至 |
| --- | --- |
| 所属 | 病態生化学部門 |
| テーマ | Nature を読む |
| 学習目標 | Nature の記事を読む。 |
| 学習方法 | Nature 又は Nature Medicine の記事を読む。 |
| テキスト | 同上 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 生化学講座 |
| 曜日・時刻 | 月、木、金のいずれかの（朝）週１回　夕方も可 |
| 期間・回数 | 30分～１時間　10回／各学期 |
| 単位 | 各学期　１単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | 数名程度 |

# セ　ミ　ナ　ー　34

| 担当教員 | 平井　義一、林　　俊治、下村　裕史、吉村　　章、矢野　晴美、森澤　雄司、笹原　鉄平 |
|---|---|
| 所属 | 細菌学部門、臨床感染症学部門 |
| テーマ | 感染症の基本的理解（特に、細菌感染症） |
| 学習目標 | 1．微生物全体の基本的概念の修得。<br>2．微生物取り扱いの基本的知識・手技の習得。<br>3．微生物学、感染症学、感染制御学での研究・検討の方法・まとめ方 |
| 学習方法 | 1．レクチャ形式<br>2．実習（染色手技、無菌操作、など）<br>3．ディスカッション形式（微生物分離例など）<br>4．英文論文の熟読（研究・検討の方法・まとめ方） |
| テキスト | 適宜に配布 |
| 対象学年 | 3～6学年（感染系基礎講義修了後） |
| 場所 | 細菌学教室（セミナー室） |
| 曜日・時刻 | 月に2回程度（曜日および時刻は受講者と相談し決める） |
| 期間・回数 | |
| 単位 | 1単位 |
| 単位認定方法 | 出席および理解度に応じて認定 |
| 備考 | このセミナーへの単独参加でもよいが、臨床感染症学のセミナー「最新かつ実践的な「世界標準の」臨床感染症診療・感染管理」と連携して行うことが望ましい。 |

# セミナー35

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 松岡　裕之 |
| 所属 | 医動物学部門 |
| テーマ | 国際保健医療 |
| 学習目標 | 現在の国際保健医療にはどの様な課題・問題があるか、どの様な解決・対応ができるかについて理解し考える。 |
| 学習方法 | 教科書、単行本、学術論文などを輪読、討論する。<br>前年度はＢＳＬで経験した症例について英語で症例呈示を行ない、英語で質疑応答を行なった。 |
| テキスト | 文献コピーを用意する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 医動物学教室セミナー室（Ｅ２－133） |
| 曜日・時刻 | 金曜日　17：00～18：30 |
| 期間・回数 | １学期に10回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ２／３以上の出席 |
| 備考 | ２～８名位 |

# セ　ミ　ナ　ー　36

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 松岡　裕之 |
| 所属 | 医動物学部門 |
| テーマ | マラリア原虫およびマラリア媒介蚊の分子生物学的研究 |
| 学習目標 | 分子生物学的手法を用いてマラリア原虫とマラリア媒介蚊の寄生関係を研究する。このことを通じて科学的論理性を習得する。 |
| 学習方法 | 放課後および週末を利用して研究室において実験を行なう。図書館・コンピューターネットワークを利用して文献の検索・抄読をする。研究成果を論文報告する。 |
| テキスト | 特に購入する必要はない。<br>教室にある図書を利用してもらう。 |
| 対象学年 | １～３学年　１～２名 |
| 場所 | 医動物学教室（Ｅ２－133） |
| 曜日・時刻 | 特に指定はない。相談のうえ決める。 |
| 期間・回数 | １年間。300時間位。 |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | 実験技術の修得、文献の読破量、実験結果にもとづくレポートの作成をみて認定する。 |
| 備考 | |

# セミナー 37

| 担当教員 | 松岡　裕之 |
| --- | --- |
| 所属 | 医動物学部門 |
| テーマ | 歴史の証言者としての百人一首 |
| 学習目標 | 藤原定家によって選ばれた百人一首は天智天皇から順徳天皇までおよそ600年の間に詠まれた和歌がその詠まれた順に並んでいる。本セミナーでは各歌について作者の人柄、詠まれた時代背景を考えながら鑑賞してゆく。 |
| 学習方法 | 毎回数首ずつ。歌の解釈にとどまらず、詠者はどんな人だったのか、他にどんな歌を詠んでいるか、その時代背景はどんなであったかなどを学んでゆく。 |
| テキスト | 高校時代に使った「百人一首」のテキストを捜し出して持参すること。<br>日本史の教科書や資料もある人は持って来ること。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 医動物学教室セミナー室（Ｅ２－133） |
| 曜日・時刻 | 毎週金曜日　12：40～13：30 |
| 期間・回数 | １学期から２学期にかけて計15回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ２／３以上の出席 |
| 備考 | |

# セミナー38

| 担当教員 | 岡本　宏明 |
| --- | --- |
| 所属 | ウイルス学部門 |
| テーマ | ウイルス感染症 |
| 学習目標 | 日本を含むアジアに多いウイルス感染症、特にウイルス肝炎や新興感染症をテーマに取り上げ、医学研究の方法論について学ぶ。 |
| 学習方法 | レクチャー、実験および関係する学術論文の抄読と評価 |
| テキスト | なし |
| 対象学年 | ５～６学年 |
| 場所 | ウイルス学教室 |
| 曜日・時刻 | 相談のうえ、スケジュールを決定する。 |
| 期間・回数 | 10回程度 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席に応じて担当教員が認める。 |
| 備考 | |

# セ　ミ　ナ　ー　39

| 担当教員 | 森澤　雄司 |
|---|---|
| 所属 | 感染免疫学講座、附属病院・感染制御部／感染症科 |
| テーマ | Clinical Problem Solving, New England Journal of Medicine を読む |
| 学習目標 | Clinical Problem Solving, New England Journal of Medicine の中から数篇を読み、医学英語に親しむとともに、症例報告に基づいて臨床推論の論理的思考過程を追体験する。 |
| 学習方法 | Clinical Problem Solving, New England Journal of Medicine の輪読。 |
| テキスト | Clinical Problem Solving, New England Journal of Medicine<br>の中から指定する。 |
| 対象学年 | ３～６学年 |
| 場所 | 感染制御部 |
| 曜日・時刻 | 木曜日・昼休み（変更あり） |
| 期間・回数 | 未定（参加者の希望による） |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席および理解度に応じて認定 |
| 備考 | 参加者数は５名程度までに限定する。 |

# セ　ミ　ナ　ー　40

| 担当教員 | 森澤　雄司 |
|---|---|
| 所属 | 感染免疫学講座、附属病院・感染制御部／感染症科 |
| テーマ | Sanford‘熱病’ガイドを読む |
| 学習目標 | Sanford Guide として知られる The Sanford Guide to Antimicrobial Therapy 最新版を通して臨床感染症学の知識を身につける。 |
| 学習方法 | The Sanford Guide to Antimicrobial Therapy 最新版の輪読、および担当教員による解説。 |
| テキスト | The Sanford Guide to Antimicrobial Therapy 最新版 |
| 対象学年 | 4～6学年 |
| 場所 | 感染制御部 |
| 曜日・時刻 | 金曜日または水曜日・夕方17時から（変更あり） |
| 期間・回数 | 未定（参加者の希望による） |
| 単位 | 1単位 |
| 単位認定方法 | 出席および理解度に応じて認定 |
| 備考 | 参加者数は5名程度までに限定する。 |

# セミナー 41

| 担当教員 | 谷口　淳一 |
| --- | --- |
| 所属 | 分子薬理学部門 |
| テーマ | 腎と体液調節 |
| 学習目標 | 体内環境とも言える体液の組成が大きく変化すると、生命を維持することも難しくなります。このセミナーでは、体液という体内環境を維持する腎臓の働きについて学びます。腎機能をやさしく解説した英語のテキストを使用しますが、専門用語以外は、中学生程度の英語で十分です。「英語を」学ぶのではなく「英語で」学び、腎臓の不思議に迫ってみましょう。 |
| 学習方法 | 単行本の輪読 |
| テキスト | B. M. Koeppen, B. A. Stanton : Renal Physiology 3rd. ed.<br>Mosby Year Book, St. Louis, 2001 |
| 対象学年 | １～３学年 |
| 場所 | 分子薬理学部門図書室（Ｅ２－130） |
| 曜日・時刻 | 金曜日・17：00～18：30（相談の上、変更可） |
| 期間・回数 | 各学期７回 |
| 単位 | 各学期１単位、１年３単位 |
| 単位認定方法 | 各学期４回以上の出席 |
| 備考 | １名以上、４名以下<br>テキストを購入する必要はありません。 |

## セ ミ ナ ー 42

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 輿水　崇鏡 |
| 所属 | 分子薬理学部門 |
| テーマ | 医学生のための創薬科学入門 |
| 学習目標 | 薬が創られるまでには病気の深い理解と研究過程が必要になります。本セミナーでは医学的に重要な分子群に対して薬が創られ、臨床で評価されるまでの過程を学ぶことにより、薬物治療について理解を深めることを目的とします。 |
| 学習方法 | 英語の総説を参加者が分担して輪読した上で教官から解説を加える。 |
| テキスト | Nature reviews drug discoveryより指定。<br>必要に応じて薬理学の教科書を引用する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 分子薬理学部門　図書室（Ｅ２－130） |
| 曜日・時刻 | 水曜日、17：00－18：00（相談により変更可） |
| 期間・回数 | ４月－３月、各学期10回 |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | テキストはプリントして配布します。５名以内。 |

# セ　ミ　ナ　ー　43

| 担当教員 | 藤村　昭夫 |
|---|---|
| 所属 | 臨床薬理学 |
| テーマ | 最新の薬物療法 |
| 学習目標 | 近年、新しい医薬品が数多く開発され、それに伴って多くの疾患において新しい薬物療法が試みられている。本セミナーでは、これらの新しい薬物療法の試みを理解するとともに、薬物療法の基本的原則を習得する。 |
| 学習方法 | 臨床薬理に関する最新の論文（欧文雑誌に掲載されたもの）を抄読し、これら新しい薬物療法の位置づけを行う。 |
| テキスト | 毎回配布する。 |
| 対象学年 | ４学年 |
| 場所 | 西棟３階、臨床薬理学カンファランスルーム |
| 曜日・時刻 | 月曜日・18：00～19：00 |
| 期間・回数 | ４月～３月　週１回 |
| 単位 | 15回出席で１単位（１年２単位まで） |
| 単位認定方法 | 出席回数 |
| 備考 | |

# セ ミ ナ ー 44

| 担当教員 | 香山　不二雄 |
|---|---|
| 所属 | 環境毒性学部門 |
| テーマ | ドラマ「ドクターハウス」から医学と英語を学ぶ会 |
| 学習目標 | 1．米国人気ドラマ「ドクターハウス」シリーズに登場する疾病について自ら調べて学ぶ。<br>2．英語ヒアリング力を高める。<br>3．英語討論力を高める。<br>4．医学英語力を高める。 |
| 学習方法 | 1．ドクターハウスを鑑賞する。<br>2．疾病、鑑別診断について調べる。<br>（1・2：事前準備）<br>3．当番になった学生が、疾病について説明する。（低学年）<br>4．当番の学生（4～6年生）が鑑別診断について説明する。<br>5．英語で疾病について議論する。<br>6．英語でアメリカ人の生活やメンタリティに関して話す。（低学年） |
| テキスト | 特にないが指定のDVDを前もって見る。 |
| 対象学年 | 3～6学年 |
| 場所 | その都度連絡 |
| 曜日・時刻 | 曜日は参加者の都合で後日決定　18：00～20：00 |
| 期間・回数 | 年間10回 |
| 単位 | 年間2単位 |
| 単位認定方法 | 2／3以上の出席 |
| 備考 |  |

# セミナー45

| 担当教員 | 福嶋　敬宜 |
|---|---|
| 所属 | 病理診断部 |
| テーマ | 伝わる文章力・情報発信力入門 |
| 学習目標 | 医療人として生き抜くための文章力と情報発信力を身に付ける。 |
| 学習方法 | 本セミナーでは、主に医学・医療・バイオ分野などに関する、一般読者を対象とした文章執筆、情報発信について学んでいく。<br>自然科学系で求められる文章は、決して難解な言い回し、しゃれたものである必要はない。まず事実を正確に伝えること、分かりやすいことこそが求められる。また、専門的な内容を噛み砕いて伝えることも重要である。<br>セミナーを通して「伝わる文章」について考えることは、コミュニケーション能力の向上にもつながるため、文書作成、論文執筆に活かせるだけでなく症例提示、研究発表、電子メール文章など、すべての、情報発信力の向上が期待できる。<br>セミナーでは、E-mail や blog なども利用し、体験的に「伝わる文章」の書き方を学んでいく。また、積極的な受講生には、なるべく学習の成果を外部に発表できる場を用意したいと考えている。 |
| テキスト | 必要に応じてプリント等を配布予定。<br>推薦図書：あなたの話はなぜ「通じない」のか<br>（山田ズーニー著、筑摩書房） |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 病理学講座　図書室（西１Ｆ） |
| 曜日・時刻 | 第１回目に参加者との話し合いで決める。 |
| 期間・回数 | 月２回程度 |
| 単位 | 年間２単位 |
| 単位認定方法 | ２／３以上の出席と活動実績 |
| 備考 | 10名程度までが望ましいと考えるが制限しない。看護学部生の参加も認める。問い合せは、福嶋（nfukushima@jichi.ac.jp）まで。 |

## セミナー 46

| 担当教員 | 苅尾　七臣 |
| --- | --- |
| 所属 | 循環器内科学部門 |
| テーマ | 循環器疾患の病態を考える |
| 学習目標 | 日常臨床のなかから未解決の重要課題をみつけ、解決する能力をやしなう。 |
| 学習方法 | 循環器疾患に関するホットな話題を提供する臨床的論文を抄読しディスカッションを行う。 |
| テキスト | なし |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 循内医局 |
| 曜日・時刻 | 火曜・ＡＭ７時45分～８時30分 |
| 期間・回数 | ４月～３月　毎週 |
| 単位 | ２単位（半年で１単位） |
| 単位認定方法 | 出席と態度 |
| 備考 | |

# セ ミ ナ ー 47

| 担当教員 | 北條　行弘 |
|---|---|
| 所属 | 循環器内科学部門 |
| テーマ | 虚血性心疾患の最新トピックスを考察する |
| 学習目標 | 日常臨床における虚血性心疾患の問題点を理解する。 |
| 学習方法 | 最新の論文から虚血性心疾患治療の現状、課題を検討する。 |
| テキスト | なし |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 循内医局 |
| 曜日・時刻 | 月曜・ＰＭ８時～９時 |
| 期間・回数 | ４月～３月　毎週 |
| 単位 | ２単位（半年で１単位） |
| 単位認定方法 | 出席と態度 |
| 備考 | |

# セ　ミ　ナ　ー　48

| 担当教員 | 市田　　勝 |
|---|---|
| 所　　属 | 循環器内科学部門 |
| テ ー マ | 弁膜症の心臓超音波検査 |
| 学習目標 | 循環器病の基礎を習得したものを対象にし、特に、弁膜症を中心として、心エコー図を判読できるようにする。 |
| 学習方法 | 当院循環器センターに入院した患者の心エコー図を読む。<br>症例は、弁膜症を中心とし、実際に行われた手術所見を参考に、その前後のエコー図を比較する。 |
| テキスト | なし |
| 対象学年 | ３～６学年 |
| 場　　所 | 循環器センター　カンファレンス室 |
| 曜日・時刻 | 金曜日　17：30～ |
| 期間・回数 | 各学期15回 |
| 単　　位 | ３単位 |
| 単位認定方法 | 出席と態度 |
| 備　　考 | |

# セミナー 49

| 担当教員 | 江口　和男 |
| --- | --- |
| 所属 | 循環器内科学部門 |
| テーマ | １枚の心電図から疾患を考える |
| 学習目標 | 心電図の基本的かつ実践的な読み方を学ぶ。 |
| 学習方法 | 実際の患者さんの心電図を見ながら心臓病の病態を考えていく。 |
| テキスト | なし |
| 対象学年 | ３～６学年 |
| 場所 | ８Ｆエレベーター横カンファ室 |
| 曜日・時刻 | 月曜日　16：45～17：30 |
| 期間・回数 | ４月～３月　毎週 |
| 単位 | ２単位（半年で１単位） |
| 単位認定方法 | 出席と態度 |
| 備考 | |

# セ　ミ　ナ　ー　50

| 担当教員 | 武藤　重明 |
| --- | --- |
| 所属 | 腎臓内科学部門 |
| テーマ | 電解質輸送セミナー |
| 学習目標 | 　腎臓におけるホルモンや薬物による電解質輸送機序を演習問題を通して学習し、ヒトの電解質代謝異常症の病態を理解する。 |
| 学習方法 | 演習問題の解説と討論。 |
| テキスト | なし |
| 対象学年 | ３～６学年 |
| 場所 | 腎臓内科学医局 |
| 曜日・時刻 | 相談の上決める。 |
| 期間・回数 | 年間15時間 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席に応じて担当教員が認定する。 |
| 備考 | ２名前後（各学年） |

# セミナー 51

| 担当教員 | 安藤　康宏 |
|---|---|
| 所属 | 腎臓内科学部門 |
| テーマ | 透析医療の環境からまなぶ |
| 学習目標 | 現在国内で30万人の慢性腎不全患者が維持透析治療を受けているが、講義やＢＳＬだけでは透析医療の片鱗しか教えることが出来ない。１年間というセミナー期間のメリットを生かして慢性腎不全保存期から透析導入期～維持期にわたる経過を症例中心に追い、透析という典型的チーム医療の現場はどのように運営されているのか、また透析患者にはどのような心身あるいは社会的問題が生じ、それをどのように解決して行くのかを文献検索や、スタッフ、患者との交流を通じて学ぶ。 |
| 学習方法 | 患者の承諾の元に慢性腎不全保存期末期～透析導入期から１年間の経過を追う。この間に透析内容や薬剤、食事内容の調節などの問題を文献検索を交えながら学んで貰う。患者が透析導入後一般透析施設に転院した場合も、時間と事情の許す限り転院先の透析施設に訪問して経過をフォローする。 |
| テキスト | 透析療法に関する基本的教本を相談の上で選定する。 |
| 対象学年 | 腎臓内科ＢＳＬを終了した５～６学年 |
| 場所 | 主に透析センター（場合により他院訪問を行う） |
| 曜日・時刻 | 相談の上決定するが、主に水乃至木曜の昼休み |
| 期間・回数 | １回１時間、５月～３月で30回程度 |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | レポート内容を主とし、他に患者、透析スタッフからの評価を参考とする。 |
| 備考 | 受け入れ１名乃至２名。長期間にわたる実際の医療現場でのケース学習であり、通常のＢＳＬ以上に配慮すべき事柄は多いため、受講希望者はセミナー開始前（４月末まで）に個別に面談して更に詳しい説明を行った上で学習の意志を確認する。 |

# セミナー 52

| 担当教員 | 湯村　和子 |
| --- | --- |
| 所属 | 腎臓内科学部門 |
| テーマ | 腎疾患の臨床と病理 |
| 学習目標 | 　腎炎を中心とした腎疾患の臨床病態と組織所見を中心とした設問式学習で、実地に役に立つ腎臓病の知識を修得する。<br>　学生さんにはテーマを決め自分で学習したレポートを提出し指導する。 |
| 学習方法 | 　腎炎患者の組織をみて、臨床病態とくに尿所見などの特徴を知り、臨床の現場で役立つ知識を学習する。 |
| テキスト | 図説　腎臓病学「第３版」<br>日本医事新報社（2005年）湯村和子ら編集<br>臨床のための腎病理　湯村和子監修<br>日本医事新報社（2010年）を用いる。 |
| 対象学年 | 腎臓内科ＢＳＬを終了した５～６学年 |
| 場所 | 腎臓内科カンファレンス室 |
| 曜日・時刻 | 相談の上決める |
| 期間・回数 | 年間15時間 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席に応じて担当教員が認定する。 |
| 備考 | １～２名<br>テキストになる本を供与する。 |

# セミナー53

| 担当教員 | 杉山　幸比古 |
|---|---|
| 所属 | 呼吸器内科学部門 |
| テーマ | 胸部Ｘ線写真読影 |
| 学習目標 | ・胸部Ｘ線写真読影に対して、ある程度の自信がもてるレベルを目ざす。<br>・主要肺疾患の画像を中心とした鑑別診断を学ぶ。<br>・画像を通して、稀な疾患を含む様々な疾患を体験する。<br>・１年間でほぼ主要な呼吸器疾患の画像を体験する。 |
| 学習方法 | 　１年間に主要な肺疾患の胸部Ｘ線像を実際に読影し、その病歴とあわせて臨床的検討を行う。 |
| テキスト | 胸部Ｘ線写真のＡＢＣ（日本医師会編）<br>（必ずしも持っている必要はありません。） |
| 対象学年 | ６学年 |
| 場所 | ４Ｆセミナー室（エレベーター横） |
| 曜日・時刻 | 月曜　17：30～18：30 |
| 期間・回数 | 平成23年４月～平成24年１月、隔週１回、約12回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | 定員７～８名まで<br>直接、呼内杉山へ申込んで下さい。 |

# セ　ミ　ナ　ー　54

| 担当教員 | 中野　今治、藤本　健一、池口　邦彦、川上　忠孝、森田　光哉<br>嶋崎　晴雄 |
| --- | --- |
| 所属 | 神経内科学部門 |
| テーマ | 臨床神経学 |
| 学習目標 | 毎週、臨床検討会で検討される症例を中心に神経疾患患者の診察法を学ぶとともに、鑑別診断から治療に到る考え方を学ぶ。又、その症例に関連した欧米の文献を読み、英語力のアップをめざす。 |
| 学習方法 | 1）臨床検討会に参加する。<br>2）希望者は研究活動にも参加できる。 |
| テキスト | 症例毎に関連文献を渡す。 |
| 対象学年 | 4～6学年 |
| 場所 | 7階南病棟カンファランスルーム |
| 曜日・時刻 | 水曜　17：00－18：30 |
| 期間・回数 | 4月～3月　30回 |
| 単位 | 1年3単位 |
| 単位認定方法 | 4／5以上の出席 |
| 備考 | |

# セミナー 55

| 担当教員 | 中野　今治、森田　光哉 |
|---|---|
| 所属 | 神経内科学部門 |
| テーマ | ＭＧＨ神経ＣＰＣ輪読 |
| 学習目標 | New England Journal of Medicine の神経疾患症例ＣＰＣ輪読と検討を通して、神経疾患診療（病態、診断、治療）についての基礎知識と基本的考え方を修得する。 |
| 学習方法 | 症例のコピーを予め学生に配布して担当学生がまず discussion し、ついで全員で検討する。中野、森田が指導する。 |
| テキスト | |
| 対象学年 | ４～６学年 |
| 場所 | ５Ｆ神経内科医局 |
| 曜日・時刻 | 金曜日・12：00～13：00（昼食をとりながら） |
| 期間・回数 | ４月～３月　25回 |
| 単位 | １年３単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | |

# セミナー 56

| 担当教員 | 滑川　道人 |
|---|---|
| 所属 | 神経内科学部門 |
| テーマ | 神経内科臨床講義 |
| 学習目標 | 本セミナーでは、毎週入院患者を直接診察し、それによって神経学的思考を養うことを第一目標とする。本来は臨床講義およびＢＳＬで学ぶべきことだが、自治医大でのそれらは量的に満足いく内容ではないのが現状であり、その補講的な役割を担っている。さらにこのセミナーには、将来の神経学を担うエリート養成の意味も込められている。 |
| 学習方法 | まず担当教官が疾患についての講義をし、その後に担当教官の指導のもと、学生自身で患者診察をおこなう。最後に15分程度で担当した症例をまとめ、典型所見、非典型所見について議論する。病棟実習となるので、白衣および診察道具を忘れずに持参すること。 |
| テキスト | 特に購入する必要はないが、臨床研修に役立つ優れたものを以下に挙げる。<br>『神経内科ハンドブック 第４版…鑑別疾患と治療』水野美邦（編）、医学書院　2000年<br>『講義録　神経学』鈴木則宏（編）、メジカルビュー社　2007年<br>『臨床のための神経機能解剖学』後藤文男 他　中外医学社　1993年 |
| 対象学年 | ５学年（神経内科に興味のある学生に限る） |
| 場所 | 神経内科（７階西）病棟 |
| 曜日・時刻 | 金曜日18：00～19：30（参加学生の希望により、変更がありうる） |
| 期間・回数 | 各学期10回、計30回 |
| 単位 | ３単位 |
| 単位認定方法 | 出席率を鑑みて、担当教員が判定する。 |
| 備考 | 参加希望者は滑川医師までメールで連絡すること。<br>（mnamekaw@jichi.ac.jp）<br>定員は４名以内とする。 |

| 担当教員 | 嶋崎　晴雄、滑川　道人 |
|---|---|
| 所属 | 神経内科学部門 |
| テーマ | 遺伝性神経変性疾患の分子遺伝学 |
| 学習目標 | 最近の分子遺伝学的アプローチの著しい進歩により、これまで殆ど手がかりがつかめなかった遺伝性神経変性疾患は、次々に原因遺伝子が同定され、病態機序の解明が進んでいる。このセミナーでは、遺伝性神経変性疾患の遺伝子診断法を学び、さらに、当研究室で行っている遺伝性神経変性疾患の原因遺伝子・病態機序の解明についての分子遺伝学的アプローチと、疾患の分子レベルでの病態を学ぶ。 |
| 学習方法 | (1)遺伝子診断を見学し、方法を学ぶとともに、遺伝子診断がもつ倫理的側面を考える。<br>(2)分子遺伝学的実験を実際に行うことにより、基本的実験手技を体得する。<br>(3)希望者は遺伝性神経変性疾患の研究活動に参加できる。<br>(4)週１回行なっている抄読会（水曜　15:00～）にも参加可能。 |
| テキスト | 特になし（適宜、関連文献を渡す。） |
| 対象学年 | ３～６学年 |
| 場所 | ５階神経内科学遺伝子研究室（Ｄ５－402） |
| 曜日・時刻 | 相談してスケジュールを決める。 |
| 期間・回数 | 各学期10回 |
| 単位 | 各学期１単位、１年３単位 |
| 単位認定方法 | 出席に応じて担当教員が認定する。 |
| 備考 | 本セミナーに興味のある学生２～３名とする。 |

# セ　ミ　ナ　ー　58

| 担当教員 | 小澤　敬也、室井　一男、永井　　正、森　　政樹、尾崎　勝俊、鈴木　隆浩、大嶺　　謙 |
|---|---|
| 所属 | 血液学部門 |
| テーマ | 骨髄像・血液像の見方 |
| 学習目標 | 血球の形態学的観察は血液疾患診察の基本である。正常細胞と異常細胞の区別をできるようにし、診断能力を養う。 |
| 学習方法 | 顕微鏡テレビ、スライド、パソコンなどを用いて、血球の見方を学ぶ。 |
| テキスト | 血液細胞アトラス（三輪史朗、渡辺陽之輔　共著）（文光堂） |
| 対象学年 | ４～６学年 |
| 場所 | 血液学部門医局　あるいは３階セミナー室 |
| 曜日・時刻 | 週１回、午後５時～６時30分 |
| 期間・回数 | １学期５月～７月（10回）、３学期１月～３月（10回） |
| 単位 | 各学期１単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | |

# セミナー 59

| 担当教員 | 石橋　　俊 |
|---|---|
| 所属 | 内分泌代謝学部門 |
| テーマ | 診断学再考 |
| 学習目標 | 一般臨床において重要性の高い診断手技をEBMの立場から復習する。 |
| 学習方法 | 指定図書の抄読と随時病棟・外来実習 |
| テキスト | 参考図書<br>・DL Simel, D Rennie<br>The Rational Clinical Examination:Evidence-Based Clinical Diagnosis<br>McGraw-Hill<br>・ハリソン内科学　第３版　MEDS:<br>・Bate's guide to Physical Evamination and History Taking 7th Ed<br>Linn S. Bickly.　Lippincott<br>資料はコピーを配布する。 |
| 対象学年 | ３～６学年 |
| 場所 | 内分泌代謝科カンファランスルーム |
| 曜日・時刻 | 相談して決める。 |
| 期間・回数 | 15回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 目標達成度または出席 |
| 備考 | |

## セ　ミ　ナ　ー　60

| 担当教員 | 岩本　雅弘 |
|---|---|
| 所属 | アレルギー膠原病学部門 |
| テーマ | リウマチ分野の症例報告 |
| 学習目標 | 英文症例報告を読み、医学英語に慣れること。 |
| 学習方法 | BMJ Case Reportsからリウマチ分野の症例報告を学習する。 |
| テキスト | なし |
| 対象学年 | 4～5学年 |
| 場所 | アレルギー膠原病学部門医局 |
| 曜日・時刻 | 月曜日　午前7：30～8：30 |
| 期間・回数 | 週1回（期間は皆で相談） |
| 単位 | 1単位 |
| 単位認定方法 | 4／5以上の出席 |
| 備考 | 5名以内 |

# セ　ミ　ナ　ー　61

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 大槻　マミ太郎、村田　哲、小宮根　真弓、前川　武雄、<br>菅井　順一、平本　力 |
| 所属 | 皮膚科学 |
| テーマ | 遺伝子から美容まで |
| 学習目標 | 皮膚科学の幅広さ、面白さを内科的および外科的側面、病理組織学、細胞や遺伝子レベルの基礎研究、美容関連領域に至るまで、様々な見地から学ぶ。 |
| 学習方法 | スライドを用いた学習以外に、臨床の見学や実習なども行う。 |
| テキスト | Visual Dermatology（月刊）　秀潤社<br>新皮膚科レジデント、戦略ガイド　診断と治療社<br>What's NEW in 皮膚科学　メディカルレビュー社　など |
| 対象学年 | ３～６学年 |
| 場所 | 皮膚科医局（臨床実習は別） |
| 曜日・時刻 | 初回は火曜日午後６時半に医局に集合、以降は随時 |
| 期間・回数 | ４～６月／10～12月を１クールとし、各計５～10回、15時間 |
| 単位 | １クール１単位 |
| 単位認定方法 | 口頭試問 |
| 備考 | ２名以上４名以下 |

# セ　ミ　ナ　ー　62

| 担当教員 | 加藤　　敏 |
| --- | --- |
| 所属 | 精神医学 |
| テーマ | 精神分析 |
| 学習目標 | 人間が他人や世界、事物と関係をもちながら日常生活を歩んでいくなかで、どんな心の動きが展開しているのか、そのありようを精神分析の見地から考えてみたい。これをとおし、医師（医療者）―患者関係を検討することも目指したい。 |
| 学習方法 | 単行本の輪読 |
| テキスト | 無意識の形成物　ジャック・ラカン著　岩波書店 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | ５階セミナー室 |
| 曜日・時刻 | 月曜（毎週）・17：30～19：30 |
| 期間・回数 | 各学期10回　１学期　５月～７月（10回）<br>２学期　９月～12月（〃）<br>３学期　１月～３月（〃） |
| 単位 | 各学期１単位、１年３単位 |
| 単位認定方法 | ２／３以上の出席 |
| 備考 | |

# セミナー 63

| 担当教員 | 加藤　　敏 |
|---|---|
| 所属 | 精神医学 |
| テーマ | 精神病理学 |
| 学習目標 | 人間の身体、精神双方の異常をきたす統合失調症、うつ病の病態及び治療について理解を深め、これをとおし心身統一体としての人間存在のありようについて考えていきたい。 |
| 学習方法 | 単行本の輪読 |
| テキスト | 精神医学の構造力動的基礎、W.ヤンツァーリク著　学樹書院 |
| 対象学年 | 4～6学年 |
| 場所 | 5階セミナー室 |
| 曜日・時刻 | 木曜（毎週）・17：30～19：30 |
| 期間・回数 | 各学期（10回）1学期　4月～6月（10回）<br>2学期　9月～12月（〃）<br>3学期　1月～3月（〃） |
| 単位 | 各学期1単位、1年3単位 |
| 単位認定方法 | 2／3以上の出席 |
| 備考 | |

# セ　ミ　ナ　ー　64

| 担当教員 | 阿部　隆明、大塚　公一郎、岡島　美朗 |
|---|---|
| 所属 | 精神医学 |
| テーマ | ドイツ語圏精神病理学の研究 |
| 学習目標 | 精神医学の中核をなす精神病理学の現状を学び、同時に、テキストの読解をとおしてドイツ語の実力を養うことをめざす。 |
| 学習方法 | 文献の輪読 |
| テキスト | ドイツ語圏の最新文献からそのつど選択し、コピーして参加者に配付する。 |
| 対象学年 | 4～6学年 |
| 場所 | 5階セミナー室 |
| 曜日・時刻 | 金曜日・18：00～19：00 |
| 期間・回数 | 毎年4月～3月・30回 |
| 単位 | 各学期1単位、1年3単位 |
| 単位認定方法 | 4／5以上の出席とドイツ語読解力 |
| 備考 | |

# セ　ミ　ナ　ー　65

| 担当教員 | 阿部　隆明 |
|---|---|
| 所属 | 子どもの心の診療科 |
| テーマ | 小児精神医学 |
| 学習目標 | 小児精神医学の基礎知識を身につけると同時に、テキストの読解をとおして英語の実力を養うことをめざす。 |
| 学習方法 | 英語の教科書の輪読 |
| テキスト | CHILD AND ADOLESCENT PSYCHIATRY（Dorothy Stubbe著） |
| 対象学年 | ４～６学年 |
| 場所 | 子ども医療センター　２階ミーティングルーム |
| 曜日・時刻 | 水曜日・17：00～18：30 |
| 期間・回数 | 毎年４月～３月・30回 |
| 単位 | 各学期１単位、１年３単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席と英語読解力 |
| 備考 | |

# セミナー 66

| 担当教員 | 大塚　公一郎 |
| --- | --- |
| 所属 | 精神医学 |
| テーマ | 多文化間精神医学 |
| 学習目標 | 　文化間葛藤や文化摩擦と精神障害の関係についての理解を深め、外国人患者の医学的対応のあり方を学ぶ。<br>　当分野における実証的研究の計画の立案、調査の実施について見学する。 |
| 学習方法 | 多文化間精神医学に関する英文論文の抄読会<br>自治医大精神科外来を受診した外国人患者の症例検討会への参加<br>希望者は在日外国人を対象とした精神医学的調査への参加可能 |
| テキスト | psychopathology<br>Soc. Sci. Med<br>Soc. Psychiatry Psychiatr Epidemiol<br>などの代表的国際雑誌の掲載論文からいくつかを選び、そのつど配付する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 看護学部　大塚研究室（内線4345） |
| 曜日・時刻 | 水曜日　18：00～19：30 |
| 期間・回数 | 各学期10回 |
| 単位 | なし |
| 単位認定方法 | なし |
| 備考 | なし |

# セミナー 67

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 桃井、山形、白石、杉江、森本、高橋、河野、森、福田、柏井、南、中島、矢田、野崎 |
| 所属 | 小児科学 |
| テーマ | 小児科症例検討会 |
| 学習目標 | 小児疾患の診断の進め方について理解する。<br>小児疾患の治療についての考え方を学ぶ。<br>病態の解析のしかたを学ぶ。 |
| 学習方法 | 診断・治療等の困難な症例について共に考え、討論する。<br>（１）症例プレゼンテーションのしかたを学ぶ。<br>（２）問題点を明確にするプロセスを学ぶ。<br>（３）疾患についての最新の知見を学ぶ。 |
| テキスト | 毎回プリントが配布される。 |
| 対象学年 | ５～６学年 |
| 場所 | とちぎ子ども医療センター　２Ｆカンファレンスルーム |
| 曜日・時刻 | 木曜日・18：00～19：30 |
| 期間・回数 | 各学期10回 |
| 単位 | 各学期１単位、１年３単位 |
| 単位認定方法 | 80％以上の出席 |
| 備考 | 毎回プリントを配布 |

# セ　ミ　ナ　ー　68

| 担当教員 | 桃井、山形、白石、杉江、森本、高橋、河野、森、福田、柏井、南、中島、矢田、野崎 |
|---|---|
| 所属 | 小児科学 |
| テーマ | 小児科リサーチカンファレンス |
| 学習目標 | ・小児疾患の最新の知見について学ぶ。<br>・小児疾患各分野の臨床的、基礎的研究の動向を知る。<br>・研究の方法論を理解する。 |
| 学習方法 | 教員のプレゼンテーションを聞いて理解し、討論するトピックに関連した文献を検索し、理解を深めると共に、問題点の解明プロセスを学ぶ。 |
| テキスト | 無し<br>適宜プリントが配布される。 |
| 対象学年 | ５～６学年 |
| 場所 | とちぎ子ども医療センター　２Ｆカンファレンスルーム |
| 曜日・時刻 | 水曜日、８：15～８：45 |
| 期間・回数 | 各学期10回 |
| 単位 | 各学期１単位、１年３単位 |
| 単位認定方法 | 80％以上の出席 |
| 備考 | |

# セミナー69

| 担当教員 | 佐田　尚宏 |
|---|---|
| 所属 | 消化器・一般外科学部門 |
| テーマ | 膵癌を中心とした膵・胆道のＣＴ診断 |
| 学習目標 | 消化期癌の中で、予後の最も悪い膵癌の画像診断を中心に、膵・胆道のＣＴ診断を基礎から学ぶ。 |
| 学習方法 | ＪＵＭＰシステム上より、症例を選択し、ＣＴ読影法を詳述し、系統的読影法を体得する。 |
| テキスト | ＪＵＭＰ（電子カルテ） |
| 対象学年 | ３～５学年 |
| 場所 | 消化器一般外科新棟５Ｆセミナー室 |
| 曜日・時刻 | 隔週木曜日ｐｍ７：00～８：30 |
| 期間・回数 | 15時間、10回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席およびセミナー時のプレゼンテーション |
| 備考 | 複数の学生の参加を希望します。 |

# セ ミ ナ ー 70

| 担当教員 | 堀江　久永 |
|---|---|
| 所属 | 消化器・一般外科学部門 |
| テーマ | 早期大腸癌の内視鏡診断演習 |
| 学習目標 | １．内視鏡所見から外科手術の対象となる早期大腸癌を診断できるようになること。<br>２．大腸モデルで全大腸の挿入が可能になること。 |
| 学習方法 | ・読影のポイントについての講義<br>・典型的の読影と解説<br>・100例程度の読影で演習<br>・以上と併行して大腸モデルによる内視鏡挿入演習 |
| テキスト | 適宜プリント等用意する |
| 対象学年 | ５～６学年 |
| 場所 | 消化器一般外科医局隣カンファランスルーム |
| 曜日・時刻 | 未定　選択者と相談して決める |
| 期間・回数 | 月２回程度　１時間程度　５～12月 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 最後に内視鏡写真の読影を行い、その結果を見て認定する。 |
| 備考 | 数名、多くとも３名以内 |

# セ ミ ナ ー 71

| 担当教員 | 前田　貢作 |
|---|---|
| 所属 | 小児外科学部門 |
| テーマ | 小児医療を熱く語ろう！　－小児外科の実際－ |
| 学習目標 | 現在の我が国の小児医療の現況を知ってもらう。<br>外科領域の中でも専門性の高い小児外科がどのようなものなのか、また小児の救急医療の現状はどうかを実体験してもらい、将来小児医療をめざす動機付にしてもらいたい。<br>関西出身のひとには関西弁でしゃべれる場にしたいですが、もちろん他県の人も自分たちのことばでフリーにディスカッションしましょう。 |
| 学習方法 | 小児医療とは、小児外科医とはについて学習する。<br>日常診療で経験した興味深い症例について検討すると共に、関連する学術論文を抄読する。また文献の探し方についても勉強する。<br>検討症例について発表し、そのノウハウを学習する。 |
| テキスト | Essentials of Pediatric Surgery<br>標準小児外科学　等 |
| 対象学年 | ４～６学年 |
| 場所 | 子ども医療センターカンファレンス室および小児外科教授室 |
| 曜日・時刻 | 相談の上 |
| 期間・回数 | ４月から12月まで年10回程度。１回１時間半くらいの予定。 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席による |
| 備考 | |

# セ　ミ　ナ　ー　72

| 担当教員 | 水田　耕一、浦橋　泰然 |
| --- | --- |
| 所属 | 移植外科学部門 |
| テーマ | 移植医療について考える |
| 学習目標 | 改正臓器移植法の施行により我が国の移植治療も変化しつつある。<br>小児生体肝移植の術前術後管理を通して、肝移植医療を学び、また国内外の移植医療の最新の実際を紹介し、移植医療について意義を深める。 |
| 学習方法 | 下記テキスト、最新の学術論文の抄読、脳死移植、生体移植のＤＶＤ鑑賞を行う。小児生体肝移植に手洗い実習で参加する。 |
| テキスト | Transplantation of the Liver<br>WC Madding , ER Shiff , ME Sand<br>Third Edition<br>Lippincott Williams Wilkins<br>及びＤＶＤ教材 |
| 対象学年 | ４～５学年（できれば各学年２人ずつ） |
| 場所 | 外科資料室あるいは外科応接室 |
| 曜日・時刻 | 相談の上決める |
| 期間・回数 | 月に１回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席 |
| 備考 | |

# セ　ミ　ナ　ー　73

| 担当教員 | 三澤　吉雄 |
|---|---|
| 所属 | 心臓血管外科学部門 |
| テーマ | 臨床論文の書き方（症例報告） |
| 学習目標 | 臨床医には経験した症例を学会報告などで済ますだけでなく、論文として形として残すことに大きな意味がある。本セミナーでは、臨床医であるならば、先ず最初に経験するであろう、症例報告の書き方を実践から学ぶことを目標とする。 |
| 学習方法 | 臨床論文から定型的な症例報告を吟味し、その報告の意義などを探る。先ずは和文論文、ついで英文論文へと展開する。症例報告の投稿形式・投稿方法を理解する。一応の形式を理解した後に、実際の症例を論文形式に書きおろす。優れた論文は、関連学術雑誌に投稿する。 |
| テキスト | 特に定めない。 |
| 対象学年 | ４～６学年 |
| 場所 | 心臓血管外科学部門医局など |
| 曜日・時刻 | 相談の上決定する。 |
| 期間・回数 | 平成23年６月～平成23年10月（10回）（変更可） |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | 2010年度は３論文（２邦文、１英文）を投稿し、３論文とも掲載が決定している。 |

# セ ミ ナ ー 74

| 担当教員 | 齊藤　　力 |
| --- | --- |
| 所属 | 心臓血管外科学部門 |
| テーマ | 大動脈瘤に対する血管内治療 |
| 学習目標 | 胸部大動脈瘤に対する治療法法としての大動脈ステントグラフト内挿術について、総合的に学習し、臨床的な位置づけを理解する。 |
| 学習方法 | 大動脈瘤について、その画像診断、計測法法、留置手順、臨床成績を実際の症例画像を用いて学習する。また手術見学を行い、さらに最近の話題を含めて文献的な理解を進めていく。 |
| テキスト | 各種ステントグラフト取扱説明書 |
| 対象学年 | ４～５学年 |
| 場所 | 心臓血管外科学部門医局など |
| 曜日・時刻 | 相談のうえ決定する |
| 期間・回数 | 平成23年４月～平成24年３月（計15時間） |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席 |
| 備考 | |

# セ ミ ナ ー 75

| 担当教員 | 河田　政明 |
|---|---|
| 所属 | とちぎ子ども医療センター・心臓血管外科 |
| テーマ | 先天性心疾患を理解する |
| 学習目標 | 今までなじみのなかった種々の先天性心疾患について、形態、生理、臨床などの理解を深める。 |
| 学習方法 | 上記について代表的論文の抄読会や、討論を中心に多面的アプローチ（形態、病態生理、歴史、実際の管理、手術や関連事項など）を行う。 |
| テキスト | 適宜プリント、論文のコピーなどを配布 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 子ども医療センター３Ｆ　ＰＩＣＵ面談室 |
| 曜日・時刻 | 火曜日18：30～19：30 |
| 期間・回数 | 平成23年５月～（15回程度） |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | |

| 担当教員 | 遠藤　俊輔、山本　真一、遠藤　哲哉 |
|---|---|
| 所属 | 呼吸器外科学部門 |
| テーマ | 肺移植 |
| 学習目標 | ラットを用いて肺移植を行い、肺移植に伴う循環動態を研究する。 |
| 学習方法 | ラットに麻酔をし、気管挿管、静脈、動脈ライン留置後開胸し、肺移植を行い、肺微小循環を観察する。 |
| テキスト | Microcirculation (ed.G.Kaley & B.M.Altura) |
| 対象学年 | ４～５学年 |
| 場所 | 微小循環研究室 |
| 曜日・時刻 | 火曜日18：00～ |
| 期間・回数 | 平成23年４月～平成24年３月 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席に応じて担当教員が認定する |
| 備考 | １名 |

# セ　ミ　ナ　ー　77

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 渡辺　英寿、小黒　恵司、五味　玲、益子　敏弘、横田　英典 |
| 所属 | 脳神経外科学 |
| テーマ | 脳神経外科を楽しむ |
| 学習目標 | 脳神経外科領域では10年前に比し診断・治療方法が確実に進んでいる。このセミナーでは脳神経外科の基本的知識を修得し、また、最近の知見、技術にふれることを目標とする。 |
| 学習方法 | 脳神経外科の様々な分野に触れる。<br>・Ｘ線写真等補助検査の読撮<br>・手術見学などの臨床の場の経験<br>・近赤外線を用いた脳科学の実験<br>・コンピュータ支援外科用ナビゲータのデモンストレーション<br>・脳腫瘍病理標本の観察 |
| テキスト | |
| 対象学年 | 全学年（３～６学年が望ましい） |
| 場所 | ７Ｆセミナー室及び脳神経外科医局 |
| 曜日・時刻 | 木曜　19：00～20：00 |
| 期間・回数 | 各学期10回で３学期（計30回を予定） |
| 単位 | 各学期１単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | テキストの用意は不要。<br>気楽なゼミです。皆さんでどうぞ。 |

# セミナー 78

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 星野　雄一、他教員 |
| 所属 | 整形外科学 |
| テーマ | 整形外科の画像診断と病態、外傷のプライマリーケア |
| 学習目標 | ①Ｘ線、ＭＲＩ像の解釈が出来るようにする。<br>②各部位の外傷、スポーツ障害等の特徴と治療法（特に初期治療）を理解する。<br>③プライマリーケアでやってはいけないことを理解する。 |
| 学習方法 | ①あらかじめ呈示された症例につき読影し、診断を考える。<br>②外傷部位別に症例検討を行う。 |
| テキスト | 特にないが、一部プリント等で予習する。 |
| 対象学年 | ４～６学年 |
| 場所 | 整形外科学教室図書室 |
| 曜日・時刻 | 火曜日　午後５時～６時30分 |
| 期間・回数 | ５月頃より開始　年10回（日時は相談の上決定する） |
| 単位 | 年１単位 |
| 単位認定方法 | 出席数４／５以上 |
| 備考 | 連絡係を１名決めておく事。 |

# セ ミ ナ ー 79

| 担当教員 | 吉川　一郎 |
| --- | --- |
| 所属 | 小児整形外科 |
| テーマ | 医師の哲学 |
| 学習目標 | 医師となって活躍するための人間感、倫理観を養う。 |
| 学習方法 | 準備した書籍の一部（抜粋）を輪読する。 |
| テキスト | 当方で準備する |
| 対象学年 | ５～６学年 |
| 場所 | 新館２階　整形外科セミナー室 |
| 曜日・時刻 | 月１回　水曜日　午後６時～（詳しくは学生と相談した上で決定する） |
| 期間・回数 | ４月～12月 |
| 単位 | 年１単位 |
| 単位認定方法 | 出席数４／５以上 |
| 備考 | 定員10名まで<br>連絡係を一人決めておくこと |

# セミナー 80

| 担当教員 | 鈴木　光明、嵯峨　　泰 |
|---|---|
| 所属 | 産科婦人科学 |
| テーマ | 腹膜播種、血管新生抑制を標的とした卵巣癌治療 |
| 学習目標 | 卵巣癌は進行例が多いため、手術時にすでに腹膜播種を来している場合が多い。腹膜播種、血管新生抑制を標的とした、いわゆるdormancy therapyがこれからのトピックとなろう。このような新しい癌治療の概念と最新の知見を勉強する。 |
| 学習方法 | 最新の文献を中心とした抄読が主たる学習方法である。細胞培養、ヌードマウス、遺伝子導入等を見学する。研究室の成績についてディスカッションする。 |
| テキスト | 最新の文献を配布する。 |
| 対象学年 | 4～5学年 |
| 場所 | 産婦人科医局 |
| 曜日・時刻 | 火曜日・16：30～18：00 |
| 期間・回数 | 隔週　1学期　5回　　2学期　5回 |
| 単位 | 1年1単位 |
| 単位認定方法 | 4／5以上の出席 |
| 備考 | 5名程度<br>テキスト購入不要 |

## セ　ミ　ナ　ー　81

| 担当教員 | 柴原　浩章、鈴木　達也 |
|---|---|
| 所属 | 産科婦人科学 |
| テーマ | リプロダクションセミナー |
| 学習目標 | ・受精および妊娠の成立過程における最新の臨床的・基礎的知識を学習する。<br>・性感染症や避妊法に関する知識を学習する。 |
| 学習方法 | ・新着雑誌やテキストにより知識を深める。<br>・精子・卵子や受精卵を用いる検査法を習得したり基礎実験を行い発表・討論する。<br>・教室主催の不妊症診療勉強会に出席する。 |
| テキスト | ・Fertility and Sterility<br>・Human Roproduction<br>・生殖医療ガイドブック2010（日本生殖医学会編）<br>・エビデンスを目指す不妊・不育外来実践ハンドブック<br>（柴原浩章、編著） |
| 対象学年 | ３～５学年 |
| 場所 | 産科婦人科学教室内研究室 |
| 曜日・時刻 | 水曜日・17：00～18：00（調整も可） |
| 期間・回数 | １学期４回　２学期４回　３学期２回　の計10回程度 |
| 単位 | １年１単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | ５名程度 |

# セ　ミ　ナ　ー　82

| 担当教員 | 八木澤　隆 |
|---|---|
| 所属 | 腎臓外科学部門 |
| テーマ | 臓器不全の代替治療（腎不全を例に） |
| 学習目標 | 代替治療（人工腎臓、腎移植）の進歩により、今や腎不全は死に至る病ではなくなった。腎不全の病態、人工腎臓、腎移植の原理、治療の実際などを学ぶ。 |
| 学習方法 | 最新の review paper また original paper を題材とする。また実際を紹介する。 |
| テキスト | おもに英文雑誌の review paper |
| 対象学年 | ３～５学年 |
| 場所 | 腎臓外科学教授室 |
| 曜日・時刻 | 選択者と相談 |
| 期間・回数 | 月に１～２回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 参加 |
| 備考 | |

# セミナー83

| 担当教員 | 市村　恵一 |
|---|---|
| 所属 | 耳鼻咽喉科学 |
| テーマ | プレゼンテーション技術の習得 |
| 学習目標 | ①論文を理解できるように読み込む<br>②人前でプレゼンテーションが効果的に出来る技術を学ぶ |
| 学習方法 | 論文を精読し、内容を十分理解した上でそれをまとめてプレゼンテーションファイルを作成し、自らが発表する形式によりプレゼンテーション技術を習得する |
| テキスト | 耳鼻咽喉科領域の論文を適宜配布 |
| 対象学年 | 4～6学年 |
| 場所 | 耳鼻咽喉科学教室内 |
| 曜日・時刻 | 月曜または火曜18：30～19：30 |
| 期間・回数 | 1～3学期で20コマ |
| 単位 | 1年2単位 |
| 単位認定方法 | 4／5以上の出席 |
| 備考 | 受け入れ人数に指定なし |

# セ　ミ　ナ　ー　84

| 担当教員 | 市村　恵一、石川　浩太郎、笹村　佳美、高野澤　美奈子、<br>菊池　恒、牧野　伸子　他教員 |
| --- | --- |
| 所属 | 耳鼻咽喉科学 |
| テーマ | Let's enjoy　耳鼻咽喉科 |
| 学習目標 | 1）耳鼻咽喉科の基本知識を学び、プライマリー・ケアに役立てる。<br>2）耳鼻咽喉科領域の研究の一端にふれてみる。 |
| 学習方法 | 1）耳鼻咽喉科領域のファイバースコピー実習<br>2）耳鼻咽喉科領域の超音波診断実習<br>3）耳鼻咽喉科領域に関するマウスを用いた実験　など |
| テキスト | 適宜プリントを配布する。 |
| 対象学年 | 4～6学年 |
| 場所 | 耳鼻咽喉科医局など |
| 曜日・時刻 | 月1～2回　木曜日　12：30～13：30　（担当者により日時の変更あり。eメールにて通知。） |
| 期間・回数 | H22年5月～　15回／年 |
| 単位 | 1単位 |
| 単位認定方法 | 出席及び学習態度 |
| 備考 | |

# セミナー 85

| 担当教員 | 西野　宏 |
| --- | --- |
| 所属 | 耳鼻咽喉科学 |
| テーマ | 全身疾患における耳鼻咽喉科 |
| 学習目標 | 耳鼻咽喉･頭頸部領域の症状を中心に全身疾患との関係をProblem-orientedに学習する。 |
| 学習方法 | ・テーマを提示し、課題を与える。<br>・配布された資料を自己学習<br>・担当教官と討議。<br>・提示した課題をセミナー学生としてまとめ、日本耳鼻咽喉科学会栃木県地方部会で代表者が口演（発表７分、質疑応答３分）<br>〔テーマ例〕<br>・呼吸困難　・めまい<br>・嗄声　・鼻出血<br>・頸部リンパ節腫脹　・嚥下障害 |
| テキスト | 資料をＰＤＦファイルで配付。 |
| 対象学年 | ４～６学年 |
| 場所 | 耳鼻咽喉科学教室内、８Ａ病棟カンファレンス室 |
| 曜日・時刻 | 月・水のいずれかで１日１時間30分 |
| 期間・回数 | １学期４回、２学期４回、３学期２回、計10回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | |

# セミナー 86

| 担当教員 | 西野　宏 |
|---|---|
| 所属 | 耳鼻咽喉科学 |
| テーマ | 耳鼻咽喉領域の症状からみた診断の進めかた |
| 学習目標 | 耳鼻咽喉・頭頚部領域の症状から検査・診断の進めかたを学ぶ。例えば嚥下障害や呼吸困難などプライマリーケアーで遭遇する症状において、耳鼻咽喉科領域に限らず総合医としての検査・診断・治療技術を学ぶ。 |
| 学習方法 | ・実際の症例を呈示し、検査・診断方法を討議する。その際に配付された資料を利用し理解を深める。<br>・患者本人同意を得た後に、実際の入院患者において実技実践をおこなう。<br>・複数年にわたるセミナー受講生は、適切なテーマの症例をまとめ、日本耳鼻咽喉科学会栃木県地方部会で口演（発表７分、質疑応答３分） |
| テキスト | 資料をＰＤＦファイルで配付。 |
| 対象学年 | ４～６学年 |
| 場所 | 耳鼻咽喉科教室内 |
| 曜日・時刻 | 月・水のいずれか１日で１時間30分 |
| 期間・回数 | １学期４回、２学期４回、３学期２回、計10回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | |

| 担当教員 | 竹内　　護、五十嵐　孝、井上荘一郎、堀田　訓久、佐藤　正章 |
| --- | --- |
| 所属 | 麻酔科学 |
| テーマ | 臨床麻酔学およびペインクリニック |
| 学習目標 | 1．心疾患、肺疾患、内分泌疾患などを合併する患者の手術において、麻酔がどのような影響を及ぼすかを理解できる。<br>2．周術期の患者管理を理解できる。<br>3．麻酔と偶発症を理解できる。<br>4．ペインクリニックを理解できる。 |
| 学習方法 | 1．関連文献によって学習する。<br>2．症例検討会に参加し、臨床例について具体的に学習する。 |
| テキスト | プリントを配布する。<br>参考図書：Anesthesiology, British Journal of Anaesthesia,<br>Basics of Anesthesia,<br>Anesthesia and Analgesia, Regional Anesthesia,<br>New Eng J Med, 他 |
| 対象学年 | 3～6学年 |
| 場所 | 中央手術場カンファランスルーム |
| 曜日・時刻 | 木または金曜日　18時～ |
| 期間・回数 | 4月～3月、週1回 |
| 単位 | 2単位（年間30回　30コマ、30時間） |
| 単位認定方法 | 4／5以上の出席 |
| 備考 | 受け入れ人数：1～6人 |

# セ　ミ　ナ　ー　88

| 担当教員 | 佐藤　正章 |
|---|---|
| 所属 | 麻酔科学 |
| テーマ | 患者急変対応 |
| 学習目標 | 1．患者急変に対応できる。<br>2．成人教育の必要性を理解できる。<br>3．AHA（アメリカ心臓協会）－BLS（Basic Life Support：一次救命処置）のインストラクター候補になれる。<br>4．卒業後にAHA-ACLS（Advanced Cardiovascular Life Support：二次救命処置）のインストラクター候補になれる。 |
| 学習方法 | 1．ILCOR（国際蘇生連絡協議会）等で検証された基本的文献の学習<br>2．CPRや除細動などのスキルの取得<br>3．高機能フルスケールシミュレーターを用いた検証 |
| テキスト | 1．AHA BLSヘルスケアプロバイダーインストラクターパッケージ（中山書店）<br>2．AHA ACLSインストラクターパッケージ（シナジー） |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 中央手術部学生実習室 |
| 曜日・時刻 | 木または金曜日　18時～ |
| 期間・回数 | 4月～3月、月1～2回 |
| 単位 | 1単位（年15回、15コマ、15時間） |
| 単位認定方法 | 4／5以上の出席 |
| 備考 | 受け入れ人数：6名程度 |

## セミナー89

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 布宮　　伸 |
| 所属 | 集中治療医学 |
| テーマ | 集中治療の現状 |
| 学習目標 | 集中治療医学の世界的な潮流に触れ、集中治療が現在抱える問題点や今後の研究課題などを検討する。またその過程を通して、臨床的解決方法を見出す習慣を身に付ける。 |
| 学習方法 | Current Opinion in Critical Care に掲載される systematic review article の中から、毎回１編を選び、全員で輪読しながら討論を行う。適宜、臨床事例を供覧する。 |
| テキスト | 文献をコピーし、事前に配布する。 |
| 対象学年 | ４学年以上が望ましい。 |
| 場所 | 西棟２Ｆ　集中治療医学医局図書室 |
| 曜日・時刻 | 隔週月曜日　18時～19時 |
| 期間・回数 | ４月から15回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席回数と討論内容 |
| 備考 | |

## セ ミ ナ ー 90

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 藤井　康友、谷口　信行、紺野　　啓、鯉渕　晴美、松永　宏明 |
| 所属 | 臨床検査医学 |
| テーマ | 超音波画像読影（エコーゼミ） |
| 学習目標 | 腹部（肝臓、胆嚢、膵臓、脾臓、腎臓、生殖器他）、心臓、体表（リンパ節、甲状腺、乳腺）頸動脈などの正常像を理解し、腹部などの基本画像は自分で描出できるようにする。また、それぞれの領域の疾患の典型的異常像についても読影、診断する能力を習得する。 |
| 学習方法 | パソコン、ＶＴＲ、スライドを用いて各臓器の解剖学的位置関係や超音波正常像について説明し、超音波の基礎工学的理論と臨床的意義について考察する。お互い被検者となって実習し、腹部などの基本的超音波像を描出できるようにする。 |
| テキスト | 資料は適宜配布する。 |
| 対象学年 | ５学年 |
| 場所 | 臨床検査医学 |
| 曜日・時刻 | 基本的には水曜日　ＰＭ５：30～６：30。担当により日時を変更することもありｅメールにて通知する。 |
| 期間・回数 | ５月～11月　（20コマ） |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | 出席数と実習到達度、理解度を総合的に勘案し評価する。 |
| 備考 | 10名以内。 |

## セ ミ ナ ー 91

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 山田　俊幸、小谷　和彦、鯉渕　晴美 |
| 所　　属 | 臨床検査医学 |
| テ ー マ | 検査値から読み解く病態生理学 |
| 学習目標 | 血液検査や生化学検査のデータが意味する背景を理解し、検査値を病態解析に活用できるようになる。同時に世界の最新論文をもとに血液生化学検査の進歩に触れる。 |
| 学習方法 | ①症例の基本的な検査データだけを呈示し、何処まで病態を読み取れるかのトレーニングをする（reversed CPC）。<br>②最新の臨床化学に関する英文抄読を行う。 |
| テキスト | 別途紹介する。 |
| 対象学年 | ５学年 |
| 場　　所 | 臨床検査医学実習室 |
| 曜日・時刻 | 相談の上、決める。 |
| 期間・回数 | ５月～12月、月２～３回程度（コースワークとして全15回） |
| 単　　位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | 出席と目標の達成度により評価する。 |
| 備　　考 | ３～４名程度受け入れる。 |

# セミナー 92

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 阿野　正樹、米川　　力、伊澤　祥光、鈴川　正之 |
| 所属 | 救急医学 |
| テーマ | 救急初療 |
| 学習目標 | ・救急外来を受診する多彩な患者に対して適切なトリアージと緊急処置が。実践できるようになる。 |
| 学習方法 | ・シミュレーショントレーニング<br>・症例検討<br>・文献の抄読 |
| テキスト | ・特に定めない |
| 対象学年 | 4～6学年 |
| 場所 | 救急医学医局 |
| 曜日・時刻 | 相談の上、決定する。 |
| 期間・回数 | H23年4月～H24年3月　月2回程度 |
| 単位 | 1単位 |
| 単位認定方法 | 出席及び学習態度 |
| 備考 | |

## セ ミ ナ ー 93

| 担当教員 | 岸　浩一郎 |
|---|---|
| 所属 | 情報センター |
| テーマ | 神経情報学研究の現状 |
| 学習目標 | 神経情報学（ニューロインフォマティクス）研究において現在何が問題になっているかを理解し、さらに学習や記憶などの脳の高次機能を研究する方法を学ぶ。 |
| 学習方法 | テキストの輪読とコンピュータ・シミュレーション |
| テキスト | 脳の研究（無名舎、2001）<br>脳を観る（日経サイエンス社、1997）<br>脳の計算理論（産業図書、1996）<br>脳とニューラルネット（朝倉書店、1994）<br>Understanding Neural Networks Vol.1,2（MIT Press, 1992）<br>各種科学誌文献、及びコンピュータ・プログラム |
| 対象学年 | １～５学年 |
| 場所 | 医学情報学研究室及びコンピュータ演習室（記念棟11階） |
| 曜日・時刻 | 水曜日または金曜日・16：15～17：45（変更もあり得る） |
| 期間・回数 | 各学期10回 |
| 単位 | 各学期１単位、１年３単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | 10名以内 |

# セミナー 94

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 岸　浩一郎 |
| 所属 | 情報センター |
| テーマ | 統計情報学の現状 |
| 学習目標 | 統計情報学の現状を理解し、国際標準の統計パッケージ（SAS、SPSS）とMS／Excelを駆使して、初級から上級までの統計分析テクニックを学ぶ。 |
| 学習方法 | テキストを用いて統計分析手法を学習し、その例題についてコンピュータを用いて実際に統計分析を行なう。（テキスト･資料等は医学情報学が準備します。） |
| テキスト | SPSSによる医学・歯学・薬学のための統計解析（第2版）（東京図書、2007）<br>SPSSでやさしく学ぶ統計解析（第3版）（東京図書、2007）<br>SPSSでやさしく学ぶ多変量解析（第3版）（東京図書、2006）<br>SPSSによる統計処理の手順（第5版）（東京図書、2007）<br>SPSSでやさしく学ぶアンケート処理（第2版）（東京図書、2007）<br>他 |
| 対象学年 | 1～5学年 |
| 場所 | 記念棟11階・医学情報学またはコンピュータ演習室 |
| 曜日・時刻 | 水曜日または金曜日・16：15～17：45（変更もあり得る） |
| 期間・回数 | 各学期10回 |
| 単位 | 各学期1単位、1年3単位 |
| 単位認定方法 | 4／5以上の出席 |
| 備考 | 20名以内 |

# セ ミ ナ ー 95

| 担当教員 | 河野　龍太郎 |
|---|---|
| 所属 | メディカルシミュレーションセンター |
| テーマ | 医療安全と医療シミュレーション |
| 学習目標 | 1．システム安全の基本的考え方を学ぶ<br>2．医療におけるシミュレーション技術の習得<br>3．技術習得の理論を学ぶ<br>4．医療用シミュレータの構造を学ぶ |
| 学習方法 | 1．文献の購読<br>2．医療用シミュレータを利用した医療技術の実習<br>3．医療用シミュレータの操作<br>4．医療用シミュレータを使って、人体挙動をプログラムする |
| テキスト | 特になし。<br>必要なものはコピー等で提供する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | メディカルシミュレーションセンター |
| 曜日・時刻 | 相談のうえ決定 |
| 期間・回数 | 1学期に10回 |
| 単位 | 1単位 |
| 単位認定方法 | 出席に応じて教員が認定する |
| 備考 | 数名程度、看護学部生も参加歓迎<br>日本の医療におけるシミュレータの利用は非常に少ない。安全を重視する産業界では、訓練用シミュレータはある一定の技術習得には必須のデバイスとして盛んに活用されている。今後の技術開発をふまえた医療用シミュレーションについて議論したいと考えている。 |

# セ　ミ　ナ　ー　96

| 担当教員 | 淺田　義和 |
|---|---|
| 所属 | メディカルシミュレーションセンター |
| テーマ | 医療のためのマインドマップ基礎講座 |
| 学習目標 | 英国の教育者・Tony Buzan 氏の開発した思考技術であるマインドマップに関して学習する。マインドマップの書き方だけではなく、思考の整理や発想法としての応用手法に関しても習得する。<br>時間に余裕がある場合、医療分野での適用に関するディスカッション等と合わせて実践的な演習を行う。 |
| 学習方法 | 以下の日程で計画しているが、参加者との相談で最終決定。<br>・ガイダンス（初回）<br>・マインドマップとその背景　＋　ワークショップ（４回）<br>・マインドマップの書き方　＋　実践（３～４回）<br>・マインドマップの応用性　＋　グループワーク（１～２回） |
| テキスト | プリント・資料を適宜利用する。<br><br>参考書（あくまでも参考書であり、必ずしも購入・持参する必要はない。<br>「ザ・マインドマップ」（ダイヤモンド社、2005） |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 原則として、記念棟７Ｆ |
| 曜日・時刻 | 週１回、17時～18時を予定。詳細は参加者と相談で決定。 |
| 期間・回数 | 通年、合計10回程度。開催日時と合わせ、相談により決定。 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席。 |
| 備考 | 10名程度。希望者多数の場合、相談の上で２コマまでは同時開催の予定。（例：同一の内容を月曜と木曜で開催、など）<br>原則として医学部生を対象とするが、興味のある学生は看護学部の学生も歓迎する。<br><br>質問は yasada@jichi.ac.jp まで |

## セ　ミ　ナ　ー　97

| 担当教員 | 淺田　義和 |
| --- | --- |
| 所属 | メディカルシミュレーションセンター |
| テーマ | ワールド・カフェ形式によるKYT（危険予知トレーニング）学習 |
| 学習目標 | 　KYT（危険予知トレーニング）とは、写真やイラストを見て考えられる危険性を予測し、事故や災害を未然に防ぐためのトレーニングであり、医療現場でも看護師を中心として広く用いられている学習方法である。<br>　今回のセミナーでは、ディスカッションの中にワールド・カフェという形式を取り入れ、活発な議論を通じたKYTトレーニングを行うとともに、医療安全に関する理解を深めることを目的とする。 |
| 学習方法 | 　以下の日程で計画しているが、参加者との相談で最終決定。<br>・ガイダンス　＋　ワールド･カフェおよびKYTの解説（１～２回）<br>・ワールド･カフェ形式での議論（１テーマ３回程度、計２回実施）<br>－テーマの紹介､各自で意見を整理（＋時間があればディスカッション）<br>－グループを入れ替えてディスカッション　＋　入れ替え　＋　まとめ<br>－グループごとに発表・共有 |
| テキスト | プリント・資料を適宜利用する。<br><br>参考書（あくまでも参考書であり、必ずしも購入・持参する必要はない。<br>・ワールド・カフェ（ヒューマンバリュー）<br>・ナースのための危険予知トレーニングテキスト（メディカ出版） |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 原則として、記念棟７Ｆ |
| 曜日・時刻 | 週１回、17時～18時を予定。詳細は参加者と相談で決定。 |
| 期間・回数 | 通年、合計10回程度。開催日時と合わせ、相談により決定。 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席。少なくとも１テーマに関しては全出席すること。 |
| 備考 | ９名以上。興味のある学生は看護学部生も歓迎する。<br><br>※複数のグループを作成した上でのワークが中心となるため、人数が揃わない場合には開講しない。<br><br>質問はyasada@jichi.ac.jpまで |

# セ　ミ　ナ　ー　98

| 担当教員 | 岡崎　仁昭、河野　正樹、金井　信行 |
| --- | --- |
| 所属 | 医学教育センター |
| テーマ | 内科鑑別診断のポイント |
| 学習目標 | N Engl J Med の Case Records of the MGH を教材に、実地臨床に役立つ内科鑑別診断の方法を学ぶ。 |
| 学習方法 | N Engl J Med の Case Records of MGH を教材に、発表者を毎回決めて、参加者全員で討論する。参加には、ある程度の英語力と毎回出席し予習してくることを条件とします。 |
| テキスト | プリントを毎回、１週前に配付する。 |
| 対象学年 | ４～６学年 |
| 場所 | 医学教育センター |
| 曜日・時刻 | 火曜日・17：00～18：00 |
| 期間・回数 | 週１回（期間は皆で相談） |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | 学ぶ意欲のある学生を歓迎します。人数は10名以内。 |

# セ ミ ナ ー 99

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 岡崎　仁昭、河野　正樹、金井　信行 |
| 所属 | 医学教育センター |
| テーマ | 臨床問題解決（Clinical Problem-Solving） |
| 学習目標 | N Engl J MedのClinical Problem-Solvingを教材に、実地臨床に役立つ内科診断学を学ぶ。 |
| 学習方法 | N Engl J MedのClinical Problem-Solvingを教材に、発表者を毎回決めて、参加者全員で討論する。 |
| テキスト | プリントを毎回、１週前に配付する。 |
| 対象学年 | ４～６学年 |
| 場所 | 医学教育センター |
| 曜日・時刻 | 火曜日・18：00～19：00 |
| 期間・回数 | 週１回（期間は皆で相談） |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | |

# セ ミ ナ ー 100

| 担当教員 | 河野　正樹、金井　信行、岡崎　仁昭 |
|---|---|
| 所属 | 医学教育センター |
| テーマ | 医学史を学ぼう。 |
| 学習目標 | 「温故知新」、現在の医学を築いてきた先人たちの苦労を知り、これからの勉学の参考にする。 |
| 学習方法 | 参考テキストの輪読、およびノーベル財団ＨＰから過去のノーベル生理学・医学賞受賞者の受賞記念講演（英語）の輪読と解説。 |
| テキスト | ノーベル財団ＨＰから過去のノーベル生理学・医学賞受賞者の受賞記念講演（英語）、まんが　医学の歴史（茨木保著、医学書院）、<br>医学の歴史（小川鼎三著、中公新書）、<br>医学の歴史（梶田昭著、講談社学術文庫1614）、<br>病が語る日本史（酒井シヅ著、講談社学術文庫1886）、<br>医学史探訪―医学を変えた巨人たち―（二宮陸雄著、医歯薬出版）、<br>医学をきずいた人びと（上）（下）（シャーウィン・Ｂ・ヌーランド著、河出書房新社）、<br>医学の歴史（全４巻）（シンガー・アンダーウッド著、朝倉書店）。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 医学教育センター（記念棟９階） |
| 曜日・時刻 | 原則月曜日18時～ |
| 期間・回数 | １回90分、年に30回。 |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | 出席点および口頭試問、試験、レポート。 |
| 備考 | ①先着10名までとします。また、必ずゼミに出席する覚悟のある学生諸君が応募してください。<br>②申込み〆切：平成23年４月28日　17：00<br>③申込み先：医学教育センター（内3252） |

# セ　ミ　ナ　ー　101

| 担当教員 | 河野　正樹、金井　信行、岡崎　仁昭 |
|---|---|
| 所属 | 医学教育センター |
| テーマ | 病態生理をしっかり学ぼう。 |
| 学習目標 | 「なぜ、こうなるのか」、臨床医学の基本である病態生理を、深く広く学ぶ。 |
| 学習方法 | 参考テキストの輪読、および解説。 |
| テキスト | 1）「疾患からまとめた病態生理 FIRST AID 」（編集　奈良信雄、メディカル・サイエンス・インターナショナル社）<br>2）生涯教育のためのセルフトレーニング問題と解説<br>（申込み用紙は医学教育センターにあります） |
| 対象学年 | ３～６学年 |
| 場所 | 医学教育センター（記念棟９階） |
| 曜日・時刻 | 原則木曜日18時～ |
| 期間・回数 | １回90分、年に30回。 |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | 出席点および口頭試問、試験、レポート。 |
| 備考 | ①必ずゼミに出席する覚悟のある学生諸君が応募してください。<br>②申込み〆切：平成23年４月28日　17：00<br>③申込み先：医学教育センター（内3252） |

# セ ミ ナ ー 102

| 担当教員 | 金井　信行、河野　正樹、岡崎　仁昭 |
|---|---|
| 所属 | 医学教育センター |
| テーマ | 学習支援セミナー |
| 学習目標 | 基礎医学から、国家試験まで、試験に合格する実力を日頃から身につける。 |
| 学習方法 | 基礎医学の定期試験から、医師国家試験までの問題を解くことによって、幅広く医学を理解する。<br>単に丸暗記するのみの医学の勉強から脱却し、病態生理にもとづいて、論理的で、長期保持しやすい知識を身につける方法を学ぶ。 |
| テキスト | １）基礎医学試験問題（過去問）（各自コピー入手すること）<br>２）基礎臨床系統講義試験問題（過去問）（各自コピー入手すること）<br>３）ＣＢＴ　コアカリ　オリエンテーションと問題集　医学評論社<br>４）アプローチ　医学評論社<br>５）卒業試験／総合判定試験問題集　平成19年、20年、21年、22年度版<br>６）医師国家試験問題集<br>７）イラスト解剖学<br>などを考えているが、相談により選択可能。 |
| 対象学年 | ２～６学年 |
| 場所 | 人数により指示する |
| 曜日・時刻 | 月～金<br>８：00～８：25　12：40～13：30（弁当持参のこと）、<br>18：00～21：00<br>などを考えているが、その他、授業のない時間、夏、冬、春などの休暇中に集中的に行いたい場合にも、相談により対応可能。各教員により、都合のつく時間が異なるので、希望の教員と時間を相談すること。 |
| 期間・回数 | 累計15時間 |
| 単位 | １単位、各学期１単位、年間３単位まで |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | １回につき１～10人であるが、複数のグループに対応する。何を勉強するかは学生の希望による。年度途中でも参加可。ただし、当該科の試験２週間以内の新規の参加は混雑が予想されるので、原則不可。日頃から学力をつけたい人のためのセミナーです。 |

# セミナー 103

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 金井　信行 |
| 所属 | 医学教育センター／病理診断部 |
| テーマ | 定期試験に合格する知識と世界に通用する幅広い医学知識を身につける |
| 学習目標 | テキスト１）で基礎的な病態生理を理解し、世界で major かつ global standard な医学書（２－６）で学び、本学での基礎臨床系統講義、BSL、CBT、卒業試験、総合判定試験、さらに医師国家試験で要求されている知識（７－10）にどのような差があるかを知り、世界に通用する医師として何を勉強すればよいかを考える。 |
| 学習方法 | １）で基礎的な病態を理解した後、２－６）のテキストを読む、または７－10）などの問題（特に臨床問題）をときながら、また11）のような最低限の知識が載っている本と比べたりしながら、２－６）のテキストを読む。 |
| テキスト | １）は必須、他は自由に選択してよい<br>１）CBT　病理アトラス　金井信行著　医学評論社<br>２）Current Medical diagnosis & Treatment （CMDT）2011<br>（１年の選択科目である「医学生のための健康医学講座」で使用しているもの）<br>３）Current Diagnosis & Treatment in Pediatrics（CDTP）20th ed<br>４）The Merk Manual 18th ed（訳本でも可）<br>５）EMS Emergency Medicine 2nd ed<br>６）Oxford Handbook of Clinical Medicine 7th ed<br>７）国試問題集<br>８）基礎臨床系統講義試験問題<br>９）卒業試験／総合判定試験問題集<br>10）医師国家試験問題集<br>11）CBT　こあかり　2012、3-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 人数により指示する |
| 曜日・時刻 | 月、水、金<br>授業のない、８：00～８：25　12：40～13：30（弁当持参のこと）、18：00～20：30などを考えているが、その他、授業のない時間、夏、冬、春などの休暇中に集中的に行いたい場合にも、相談により対応可能。 |
| 期間・回数 | 累計15時間 |
| 単位 | １単位、各学期１単位、年間３単位まで |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | １回につき１～３人であるが、複数のグループに対応する。希望の領域を指定してもらうことも可能（定期の「循環器」をしてほしい、BSLで見たことを復習したいなど）。基本的には当方の capacity 内で、先約順であるが、希望者の意欲等も考慮する。臨床医学に限らず、解剖などの基礎医学についても対応可能。 |

# セミナー 104

| 担当教員 | 丹波　嘉一郎、加藤　直克 |
|---|---|
| 所属 | 緩和医療講座、哲学 |
| テーマ | 緩和ケア入門　「緩和ケアいろは歌」を読み解く |
| 学習目標 | 「緩和ケアいろは歌」を通して緩和ケアの基礎を学ぶ |
| 学習方法 | 予め配布する「緩和ケアいろは歌」（アニメ入りパワーポイント）を毎回数枚ずつ観て、討論し、作者（丹波）が解説する。 |
| テキスト | 特に定めない。参考文献等は紹介する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 記念棟10階応接室 |
| 曜日・時刻 | 毎月第２木曜・18：00～19：30 |
| 期間・回数 | 年間10回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ７回以上の参加 |
| 備考 | |

# セミナー 105

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 丹波　嘉一郎、井上　荘一郎、岡島　美朗 |
| 所属 | 緩和ケア医療講座 |
| テーマ | 緩和ケアのスタンダードについて考える |
| 学習目標 | 　カナダの標準的な緩和ケアマニュアルを読んだり、必要に応じて新たな文献を紹介して、緩和ケアのスタンダードとは何かを考える。 |
| 学習方法 | Alberta Hospice Palliative Care Resource Manual の改訂版の抄読会<br>緩和ケアに関する新しい文献の抄読会 |
| テキスト | Alberta Hospice Palliative Care Resource Manual の改訂版 |
| 対象学年 | 臨床的なので４学年以上が望ましい |
| 場所 | 緩和ケア病棟医師室 |
| 曜日・時刻 | 毎週木曜日　昼の12時30分～ |
| 期間・回数 | |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 月１回以上の出席 |
| 備考 | |

## セ　ミ　ナ　ー　106

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 岡島　美朗 |
| 所　　属 | 緩和医療講座 |
| テ　ー　マ | 心身医学 |
| 学習目標 | 医療の中で起こる問題のうち、心理面への対処が必要なもの（心身症・虐待・不登校・発達障害・緩和ケアなど）の実状を理解し治療技法について学ぶ。 |
| 学習方法 | 国内で発行されている心身医学・精神医学の雑誌に掲載されている症例報告を輪読し、それについて討論をおこなう。 |
| テキスト | その都度文献をコピーし配布する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場　　所 | ４階セミナー室 |
| 曜日・時刻 | 水曜日・12：20～13：00 |
| 期間・回数 | 各学期10回 |
| 単　　位 | なし |
| 単位認定方法 | なし |
| 備　　考 | |

# セミナー 107

| 担当教員 | 梶井　英治 |
|---|---|
| 所属 | 地域医療学 |
| テーマ | わが国における医療の現状分析と将来展望 |
| 学習目標 | 　わが国の医療の現状を分析し解決策を探り、医療の将来あるべき姿を模索する。 |
| 学習方法 | 　参加各人が課題を持ち、セミナーの進行を通して学内外から招く講師と議論を重ねながらその課題を解決する手法で学習を行う。 |
| テキスト | なし |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 地域医療学教室 |
| 曜日・時刻 | 希望者と相談の上、決定 |
| 期間・回数 | 年間25回 |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | ３／５以上の出席 |
| 備考 | 学内外から招く講師および当教室員の協力を仰ぐ。 |

# セ　ミ　ナ　ー　108

| 担当教員 | 石川　鎮清 |
| --- | --- |
| 所属 | 地域医療学部門 |
| テーマ | “大規模循環器コホートのいろは” |
| 学習目標 | Community-base の調査研究方法の手法を学ぶ。<br>特に健診データ等の解析法を中心とする。<br>国内外の疫学研究について検討する。 |
| 学習方法 | 平成22年度より開始となるＪＭＳⅡコホート研究を通して、住民ベースのコホート研究に関して実践的に学ぶ機会とする。可能なら現地での調査にも参加してもらう。 |
| テキスト | 特になし。<br>必要なものはコピー等で提供する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 地域医療学教室、カンファレンステーブル<br>現地に赴く予定もある。 |
| 曜日・時刻 | 希望者と相談の上決定 |
| 期間・回数 | 年間20回を予定 |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | |

# セミナー 109

| 担当教員 | 石川　鎮清 |
| --- | --- |
| 所属 | 地域医療学部門 |
| テーマ | 身体所見から診断を考える |
| 学習目標 | 身体所見や簡単な検査所見から鑑別診断について検討する。<br>疾患の頻度や検査特性について勉強する。<br>全体を通してＥＢＭの実践を学ぶ。 |
| 学習方法 | ・ＪＡＭＡの Rational Clinical Examination のシリーズを読む。<br>・必要に応じてロールプレイ、診断手技の確認を行う。 |
| テキスト | 適宜コピーを配布：Rational Clinical Examination シリーズ |
| 対象学年 | ４～６学年 |
| 場所 | 新館２Ｆセミナー室５ |
| 曜日・時刻 | 火曜日夜19：30～ |
| 期間・回数 | 年間20回以上を予定 |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | このテーマに興味のある医師も参加の可能性あり。 |

# セミナー110

| 担当教員 | 亀崎　豊実 |
|---|---|
| 所属 | 地域医療学部門・地域医療支援部門 |
| テーマ | 貧血を考える |
| 学習目標 | 貧血について理解を深める |
| 学習方法 | 下記テキストと関連する論文の輪読 |
| テキスト | ・Immune Hemolytic Anemias 2nd Edition（2003）<br>・適宜、プリントを配布します。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 地域医療オープン・ラボ（DS-001） |
| 曜日・時刻 | 相談の上、決める。 |
| 期間・回数 | 週１回程度 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席 |
| 備考 | |

# セミナー 111

| 担当教員 | 岡山　雅信 |
| --- | --- |
| 所属 | 地域医療学部門 |
| テーマ | 診断のプロセス（Evidence-based Clinical Diagnosis） |
| 学習目標 | 臨床診断のプロセス（臨床推論）を学ぶ<br>臨床判断のプロセスを学ぶ<br>Evidence-based Medicineの基本事項を学ぶ |
| 学習方法 | 下記のテキストに記載されているケースを全員で輪読後に、診断のプロセスを議論しながら、最終診断を得る。この過程を通じて、診断のプロセス（臨床推論）等を学習する。 |
| テキスト | 1．The Rational Clinical Examination, Evidence-based Clinical Diagnosis (David L. Simel, Drummond Rennie, McGraw-Hill, 2009)<br>2．Clinical Reasoning in the Health Professions, 3rd ed. Higgs J, et al, Elsevier, 2008)<br><br>テキストの購入は必要ありません。適時用意します。希望時、日本語版を使用します。 |
| 対象学年 | 3～6学年 |
| 場所 | 地域医療学部門　小会議室 |
| 曜日・時刻 | 水曜日　20時～21時30分（相談可） |
| 期間・回数 | 年間20回 |
| 単位 | 2単位 |
| 単位認定方法 | 出席16回以上 |
| 備考 | |

# セ　ミ　ナ　ー　112

| 担当教員 | 岡山　雅信、藍原　雅一 |
| --- | --- |
| 所属 | 地域医療学部門、地域医療情報学部門 |
| テーマ | 地理情報システム（GIS）の活用 |
| 学習目標 | 地理情報システム（GIS）の活用による医療資源の分布を分析する。<br>1）　地理情報システムの理解を深める<br>具体的には<br>2）　病院、診療所など医療資源の分布を都道府県間で比較する<br>3）　医療資源へのアクセスの課題を理解する。 |
| 学習方法 | 地理情報システムに関連する論文の輪読。<br>地域医療学センター地域医療情報学部門で蓄積したデータベースの分析。 |
| テキスト | 特にありません<br>必要に応じて、資料は用意します。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 地域医療学部門　小会議室 |
| 曜日・時刻 | 月曜日　19時～20時30分 |
| 期間・回数 | 年間20回 |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | 出席16回以上 |
| 備考 | |

# セミナー 113

| 担当教員 | 三瀬　順一 |
| --- | --- |
| 所属 | 地域医療学部門 |
| テーマ | 家庭医療学の基本 |
| 学習目標 | 1．家庭医療学の基本概念を知る。<br>2．家庭医療の実践に必要な知識と技術を身につける。<br>3．行動科学と臨床疫学の基本を身につける。<br>4．設定に合わせた医療のあり方を考え、自分の意見をもてるようにする。 |
| 学習方法 | 1．テキストの輪読<br>2．ディスカッション<br>3．小規模な記述研究<br>4．実地修練又は見学 |
| テキスト | Mcwhinney IR：A textbook of Family Medicine 2nd Ed, 1997<br>Taylor R：Family Medicine 6th Ed. 2000<br>日本家庭医療学会編　家庭医　プライマリ・ケア医入門, 2000 |
| 対象学年 | 3～6学年 |
| 場所 | 本館2階西　地域医療学部門（2階西病棟跡地） |
| 曜日・時刻 | 毎週水曜日、午前7時30分～8時20分　春季、夏季休暇中 |
| 期間・回数 | 30分×30回（1.5hr×10コマ、15hr）、1～2日×2回 |
| 単位 | 1単位 |
| 単位認定方法 | レポート（小論文）又は、学会口演又は論文投稿 |
| 備考 | |

# セ ミ ナ ー 114

| 担当教員 | 三瀬　順一 |
| --- | --- |
| 所属 | 地域医療学部門 |
| テーマ | コモンヘルスプロブレム解剖から臨床まで“教えて学ぶ” |
| 学習目標 | 今、講義で学んでいることを他学年に教えることを通して自ら学ぶ力を育てる。 |
| 学習方法 | 1．課題を決めて自習<br>2．自習結果を発表<br>3．若干のディスカッション |
| テキスト | ハリソン内科学 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 本館２階西　地域医療学部門（２階西病棟跡地） |
| 曜日・時刻 | 木曜日・18時～19時30分 |
| 期間・回数 | 90分間×30回 |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | 参加者による評価 |
| 備考 | |

# セ　ミ　ナ　ー　115

| 担当教員 | 中村　好一、上原　里程、青山　泰子、小谷　和彦、定金　敦子<br>千原　　泉、坪井　　聡 |
|---|---|
| 所属 | 公衆衛生学部門 |
| テーマ | 病気になる人、ならない人 |
| 学習目標 | データ解析を通じて病気の頻度を規定する因子について科学的に考える方法を学ぶ。 |
| 学習方法 | 教室内にある疫学データを解析する。可能であれば学会発表や論文作成にもチャレンジする。 |
| テキスト | 特に定めない<br>参考文献（先輩達の成果）<br>１）槙尾崇、他、自動車事故死亡の都道府県格差に関する要因、日本公衛誌　1997；44（10特別附録）：190.<br>２）黒川雅史、他、離婚の疫学、月刊地域医学　2001；15(8)646-651. |
| 対象学年 | ３～５学年 |
| 場所 | 公衆衛生学研究室１（Ｅ１－108） |
| 曜日・時刻 | 参加者と相談の上、決める。 |
| 期間・回数 | ５月～12月隔週１回　20コマ |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | ２年間以上にわたる継続受講も可能 |

# セ　ミ　ナ　ー　116

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 中村　好一、上原　里程、青山　泰子、小谷　和彦、定金　敦子<br>千原　　泉、坪井　　聡 |
| 所属 | 公衆衛生学部門 |
| テーマ | 疫学統計の概念を学び、実践する |
| 学習目標 | 疫学統計の基本を理解し、実例や論文などを通して実践を学ぶ |
| 学習方法 | 毎月４回のうち、第１～３回についてはテキストを使って疫学統計の基礎を勉強していく。また、毎月第４回目は、疫学に関連する論文や、参加者の研究内容を発表しディスカッションをして疫学、公衆衛生への実践、応用をはかる。 |
| テキスト | 疫学、生物統計学に関する和洋書<br>（テキストは公衆衛生学教室で提供する）<br>過去のテキスト：福井次矢（監）, 臨床疫学<br>CDC, Principles of Epidemiology (3rd edition) |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 公衆衛生学研究室１（Ｅ１－108） |
| 曜日・時刻 | 火曜日（18：00～19：30） |
| 期間・回数 | ５月～３月　40回 |
| 単位 | ２単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | |

# セミナー 117

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 坂田　洋一、三室　　淳 |
| 所属 | 分子病態研究部 |
| テーマ | 止血血栓の新展開 |
| 学習目標 | 生きるための闘いの中で、止血機構は重要な役割を果たし、進化してきた。現在でも殆どの疾患において、血栓と出血は致死的要因として重要な意味を持つ。止血血栓形成の分子機構、及び、止血血栓関連因子が組織修復から血管新生までに果たす役割について、新しい学術論文の抄読を通して理解を深める。 |
| 学習方法 | 関係する学術論文の抄読と評価に焦点を当てる。<br>時間が許せば遺伝子解析などの実際を観察することも可能である。 |
| テキスト | テーマを選んで、関連論文を指定する。 |
| 対象学年 | 4～6学年 |
| 場所 | 分子病態研究部（止血血栓）教室 |
| 曜日・時刻 | 月曜日、午後5時頃～6時30分頃迄 |
| 期間・回数 | 5月～12月：計15回 |
| 単位 | 1単位 |
| 単位認定方法 | 出席回数10回以上及び内容の理解度 |
| 備考 | 2～3人のグループが望ましい。 |

# セミナー 118

| 担当教員 | 古川　雄祐、菊池　次郎、和田　妙子 |
|---|---|
| 所属 | 幹細胞制御研究部（造血発生） |
| テーマ | 血液細胞培養の基礎と臨床研究への応用 |
| 学習目標 | 種々の分野の医学研究の基礎である細胞培養の基本的手技について血液細胞を例として学び、臨床研究への応用につき考察する。 |
| 学習方法 | 血液細胞（細胞株および初代培養）の培養を実際に行い、基本的手技を体得する。その後、実際に細胞を用いて応用研究を行う。 |
| テキスト | 特になし（文献は適宜配布） |
| 対象学年 | １～３学年 |
| 場所 | 幹細胞制御研究部（造血発生）研究室 |
| 曜日・時刻 | 特に指定はなし、平日は午後３時頃から |
| 期間・回数 | 年間20回以上（週３回以上の出席が望ましい） |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 出席に応じて担当教員が認定する。 |
| 備考 | |

# セ ミ ナ ー 119

| | |
|---|---|
| 担当教員 | 小澤　敬也、久米　晃啓、水上　浩明、卜部　匡司、塚原　智典 |
| 所属 | 遺伝子治療研究部 |
| テーマ | 遺伝子治療 |
| 学習目標 | 遺伝子治療をメインテーマとし、先端医学のテクノロジーの基礎と応用について学ぶ。 |
| 学習方法 | スライドを用いたレクチャーのあと、フリーディスカッションを行う。また、研究室の雰囲気を知るため実験を見学する。 |
| テキスト | 参考図書：<br>医学＆サイエンスシリーズ「遺伝子治療」（羊上社）<br>臨床遺伝子医学ガイダンス（南山堂）<br>造血幹細胞―基礎から遺伝子治療・再生治療へ―（中外医学社） |
| 対象学年 | ３～６学年 |
| 場所 | 遺伝子治療研究部会議室 |
| 曜日・時刻 | 18：00～19：30　・但し、相談してスケジュールを決定する。 |
| 期間・回数 | １学期のみ10回（５月～７月） |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | ２名以上５名以下 |

# セ　ミ　ナ　ー　120

| 担当教員 | 花園　豊 |
| --- | --- |
| 所属 | 再生医学研究部 |
| テーマ | 「時事医学」入門 |
| 学習目標 | 医学上の「新発見」や「新開発」といったニュース見聞の機会は少なくない。マスコミに出る医学情報、とくに再生医学関連ニュースを取り上げて、先端医学の現状を知り社会との接点を探る。<br>また、先端医学に関するマスコミ情報を客観的に捉える能力を養う。 |
| 学習方法 | 1．新聞記事の切り抜きとスクラップブックの作成。<br>2．原典（原著論文や学会抄録）にあたる。<br>3．レクチャーと自由討論。 |
| テキスト | 特に定めないが、適宜紹介する。 |
| 対象学年 | 3～6学年 |
| 場所 | 再生医学研究部 |
| 曜日・時刻 | 曜日は応相談、時刻は17：00～18：30 |
| 期間・回数 | 1学期（5－7月）または3学期（1－3月）のうち1学期のみ10回 |
| 単位 | 1単位 |
| 単位認定方法 | 4／5以上の出席 |
| 備考 | 2名以上5名くらいまで。 |

## セミナー 121

| 担当教員 | 高橋　将文 |
| --- | --- |
| 所属 | バイオイメージング研究部 |
| テーマ | 心血管疾患の基礎と臨床 |
| 学習目標 | 心血管疾患の基本的な病態とそれに応じた治療法について学習する。その上で、心血管疾患における先端医療についても学んでいく。 |
| 学習方法 | テーマを決めて討論を行いながら学習する。また、先端医療については、Nature Medicine やCirculation等の原著論文を利用しながら学んでいく。 |
| テキスト | 特になし（文献等は適宜配布し、教科書についても必要であれば相談の上で決める）。 |
| 対象学年 | ３～６学年 |
| 場所 | バイオイメージング研究部（西口） |
| 曜日・時刻 | 相談の上、決める。 |
| 期間・回数 | 相談の上、決める。 |
| 単位 | 年間１単位 |
| 単位認定方法 | 出席に応じて担当教員が決める（原則８割以上）。 |
| 備考 | |

# セミナー 122

| 担当教員 | 川上　潔、佐藤　滋、矢嶋　浩 |
|---|---|
| 所属 | 細胞生物研究部 |
| テーマ | 発生生物学 |
| 学習目標 | 新着雑誌から、発生、形態形成などの現象にかかわる重要な論文の骨子を教員が紹介し、最近の動向を学ぶ。 |
| 学習方法 | 新着雑誌の解説、討論。 |
| テキスト | 毎回、取り上げる論文のデータを主とした資料プリントを配布。 |
| 対象学年 | 全学年（高学年を主とする） |
| 場所 | 共同セミナー室（細胞生物研究部隣）（W３－110） |
| 曜日・時刻 | 火曜日・18：00から約１時間半。 |
| 期間・回数 | 毎月３回、通年30回 |
| 単位 | 10コマ　１単位×３、年３単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | 参加申込期間中随時。<br>申込方法：細胞生物研究部川上まで氏名、寮室番号・電話番号、連絡先を書いたメモをわたす。 |

| 担当教員 | 川上　　潔 |
|---|---|
| 所属 | 細胞生物研究部 |
| テーマ | 細胞の分子生物学 |
| 学習目標 | 最新の知識を取り入れ、細胞の分子生物学を体系的に学ぶ |
| 学習方法 | Molecular Biology of the Cell の各回のテーマ部分をあらかじめ各自読み、要約し、問題点等を討論する |
| テキスト | Molecular Biology of the Cell 5th Edition 2008. 1 月　発刊 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 共同セミナー室（西３階） |
| 曜日・時刻 | 毎週木曜日午前７：25～８：25 |
| 期間・回数 | 毎回１時間・15回　２学期～３学期 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ８割以上の出席 |
| 備考 | このセミナーで学ぶ事は医学全般の基礎知識の習得に有用である。意欲のある学生向きである。 |

# セ ミ ナ ー 124

| 担当教員 | 川上　　潔 |
| --- | --- |
| 所属 | 細胞生物研究部 |
| テーマ | がんの生物学 |
| 学習目標 | がんの生物学を理解する。 |
| 学習方法 | 毎週決めた章を読んでおく。その内容についての討論をセミナー中に行い、理解を深める。<br>討論が主である。 |
| テキスト | 南江堂　がんの生物学（2008刊） |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | Ｗ３－110 |
| 曜日・時刻 | 毎週月曜日午前７：25～８：25 |
| 期間・回数 | 全15回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | |

# セ ミ ナ ー 125

| 担当教員 | 佐藤　　滋 |
|---|---|
| 所属 | 細胞生物研究部 |
| テーマ | われわれを取り巻く環境と、発生や疾患との関わりを理解しよう。 |
| 学習目標 | 新しい学問分野である Ecological Developmental Biology の教科書を読み、環境因子によって引き起こされるエピジェネックな変化と、医学そして生物の発生・進化との関わりについて理解を深める。 |
| 学習方法 | 毎回決めた章を各自読んでおく。重要な点を要約し、その内容についての討論を行う。 |
| テキスト | Ecological Developmental Biology - Integrating Epigenetics, Medicine, and Evolution<br>著　者：Scott F. Gilbert, David Epel<br>出版社：Sinauer Associates Inc<br>第１版（2008/12/15発売）<br>ISBN-13 : 978-0878932993 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | Ｗ３－110 |
| 曜日・時刻 | 希望者と相談の上決定 |
| 期間・回数 | 全15回 |
| 単位 | １単位 |
| 単位認定方法 | ４／５以上の出席 |
| 備考 | |

# セ ミ ナ ー 126

| 担当教員 | 岩本　禎彦 |
| --- | --- |
| 所属 | 人類遺伝学研究部 |
| テーマ | 人類遺伝学セミナー |
| 学習目標 | 近年のゲノム解読計画によって、ほぼヒト全ゲノムの塩基配列の決定が終了した。しかし、これは解析のほんのスタートにすぎない。今後はその中にどのような暗号が隠されているのか、それを解くための文法はあるのかなど残された謎は多い。本セミナーでは、ゲノム解析の現状を知り、その情報を処理する方法を探る。 |
| 学習方法 | 1．ゲノム解析に関する最新文献を抄読する。<br>2．インターネットを使って、ジーンバンクなどの遺伝子情報、ソフトウェアを活用する方法を修得する。 |
| テキスト | プリントを準備、配布する。 |
| 対象学年 | 全学年 |
| 場所 | 分子病態治療研究センター・人類遺伝学研究部 |
| 曜日・時刻 | 相談の上決定 |
| 期間・回数 | 各学期10回、計30回 |
| 単位 | 1年間で2単位 |
| 単位認定方法 | 4／5以上の出席 |
| 備考 | 3人程度 |

## セ　ミ　ナ　ー　127

| 担当教員 | 小西　文雄、清崎　浩一、河村　　裕 |
| --- | --- |
| 所　　属 | 総合医学第２ |
| テ　ー　マ | 地域における消化器癌検診の現状と問題点 |
| 学習目標 | 地域における胃癌・大腸癌の検診がどのように実施されており、その結果発見される胃癌・大腸癌の特徴は何か？検診の問題点等について学習する。 |
| 学習方法 | 自治医科大学さいたま医療センターにおいて手術された胃癌・大腸癌の手術症例の検討をもとに上記の目標を達成する。<br>・胃癌検診については、２年前から内視鏡検査が導入されている。従って、内視鏡による健診とＸ線による健診につき、それぞれの健診で発見された癌の特徴を検討する。。<br>・検診で発見された胃癌・大腸癌の術前病期診断および切除標本の病理組織学的所見と遠隔成績を有症状にて発見された症例と比較して検討する。 |
| テキスト | 大腸癌・大腸ポリープ（図説消化器病シリーズ８）<br>よくわかる大腸癌のすべて（永井書店）他<br>胃癌リスク健診（ABC 健診）マニュアル（南山堂　2009年10月） |
| 対象学年 | ４～５学年 |
| 場　　所 | 自治医科大学さいたま医療センター４階カンファレンスルーム |
| 曜日・時刻 | 毎週あるいは隔週、水、木または金曜日、午後４時～６時 |
| 期間・回数 | １回２時間～３時間　１／１～２週 |
| 単　　位 | １単位 |
| 単位認定方法 | 試問およびレポートによる |
| 備　　考 | |